



市民の声を施策に反映
まちづくりネットモニター
を実施しました



ターゲット 16.6

令和3年1月26日
(ネットモニターに関すること)
郡山市政策開発部広聴広報課
担当：上田 利実
TEL：924-2061

※ 調査内容については担当まで

SDGs ターゲット 16.6 「有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる」

2020年度まちづくりネットモニター（第10～12回調査）の調査結果をお知らせします。

○調査概要（詳細は別紙のとおりです。）

・第10回(10月19日(月)～28日(水))

テーマ	こおりやま広域圏について
目的	幅広い住民の意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため
考察	認知度は52.8%と前回調査時（2019年）の45.5%より向上 買い物やレジャー、親戚や友達の付き合い等、連携市町村と関わりをもっている方がほとんどであり、双方向的な交流が圏域内で行われている。
回答者数/率	316名(男性 152名 女性 164名) 87.8%
担当	政策開発部政策開発課 高橋 勇介 TEL：924-2021

・第11回(11月4日(水)～13日(金))

テーマ	自然環境・生物多様性について
目的	本市の自然環境・生物多様性に関する施策を推進するための検討資料とするため
考察	人と自然が共存する地理的特徴を多く持つ郡山市において、住民の生活に密接に関係する生物の多様性及び外来種について、環境教育及び普及・啓発活動に取り組んでいくことが重要
回答者数/率	318名(男性 151名 女性 167名) 88.3%
担当	生活環境部環境政策課 根本 泰広 TEL：924-2731

・第12回(11月18日(水)~27日(金))

テーマ	洪水ハザードマップについて
目的	市民の皆さまの洪水ハザードマップにおける認知度について調査を行うため
考察	洪水ハザードマップの認知度はとても高いが、実際の内容について確認されている方の割合は少ない。特に年代が若くなるにつれて、内容の認知度は低い傾向にあるため、若い世代を対象に周知・啓発を行っていく必要がある。
回答者数/率	314名(男性 152名 女性 162名) 87.2%
担当	建設交通部河川課 金子 武司 TEL：924-2701



ウェブサイトへ
アクセスできます。

https://www.city.koriyama.lg.jp/shiseijoho/koho_kocho/netmonitor/index.html

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々に御協力いただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。

(モニター数：360名(男性 172名、女性 188名))

今回は、2020年度第10~12回目の調査となります。

本市を含む近隣市町村は、社会的、経済的な結びつきが強く、様々な分野で密接な関係を構築してきました。

2019年度には二本松市が参加し本市を含め16市町村で「こおりやま広域連携中枢都市圏」を形成し、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するため、取り組みを進めています。公共施設の相互利用促進や、産業や環境分野等の共同研究、そして2019年の令和元年東日本台風被害等の災害対応に係る相互支援等、様々な分野において協力・連携が進められています。

今後、幅広い住民の意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(政策開発課)

調査概要

- 調査期間 令和2年10月19日(月)～10月28日(水) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 316名 (男性 152名 女性 164名)
- 回答率 87.8%



こおりやま広域圏
ポータルサイト

＜＜回答者内訳(人)＞＞

性別/年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	6	6	15	30	33	15	40	7	152
女性	7	10	37	55	38	14	2	1	164
合計	13	16	52	85	71	29	42	8	316

＜＜広域連携への理解＞＞

98.1% (310人) が賛同する、1.9% (6人) が賛同しないと回答

＜＜こおりやま広域圏の認知度＞＞

52.8% (167人) が知っている、47.2% (149人) が知らないと回答

＜＜交流の内容＞＞

「買い物や外食等」 (59.0%)、「親戚や友達等との付き合い」 (53.6%)

「観光地、公園、レジャー」 (47.1%)、「文化スポーツ施設等利用」 (21.2%)

＜＜圏域の共通課題＞＞

「少子高齢化の進行」 (57.0%)、「まちなかの賑わいが無い」 (45.3%)、

「交通の便が悪い」 (32.6%)、「人口が減ってきている」 (29.4%)

＜＜連携を深めていくべき取組＞＞

「災害時等の相互支援体制」 (62.7%)、「新型コロナウイルス等感染症対策」 (38.6%)、

「地域の防災・安全対策」 (34.8%)、「誰もが柔軟に働くことができる環境整備」 (28.5%)

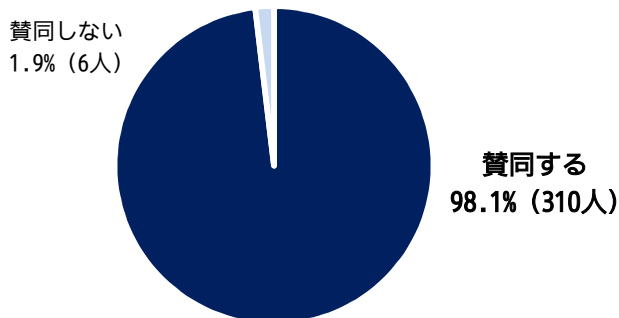
【考察】

- ・広域連携の推進自体についてはほとんどの方が「賛同」と回答している。
- ・全体の認知度は52.8%と前回調査時(2019年)の45.5%より向上したものの、依然としておよそ半数の方が知らないと回答しており、引き続き様々な対象に向けた効果的な周知方法について検討していく必要がある。
- ・買い物やレジャー、親戚や友達の付き合い等、連携市町村と何らかの関わりをもっていると回答した方が92.7%と、双方向的な交流が圏域内で行われている。
- ・中枢都市(郡山市)の役割については「リーダーシップ」という意見が多い。一方、連携市町村の役割については「情報発信」のほか「それぞれの強み・特性の発揮」といった回答も多く見られ、連携への主体的な参画が求められている。

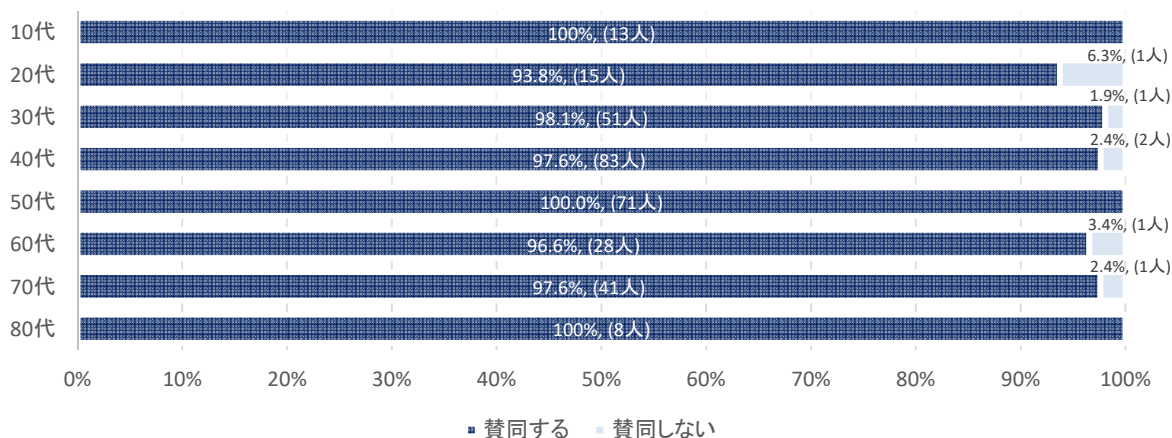
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

**問1 近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、どのように思いますか？
(1つ選択)**

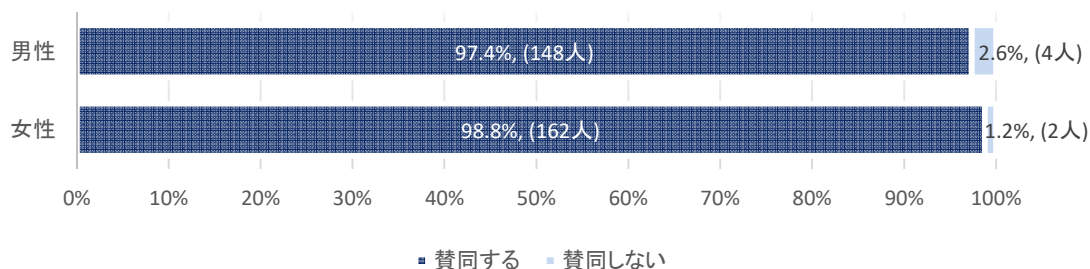
(回答者：316人)



年代別



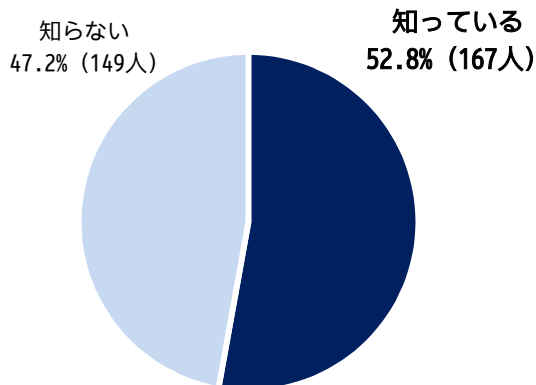
性別



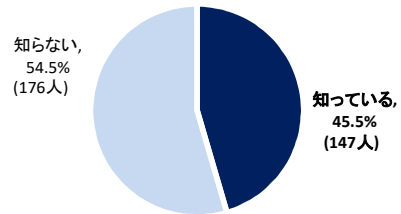
近隣市町村との広域連携推進について、全体の98.1%が賛同すると回答。
年代別に見ても、全年代において90%を超える方が賛同と回答しており、特に10代、50代及び80代では100%となっている。
また、性別でも男女差はほとんどなく、「広域連携の推進」については、概ね理解を得られている。

問2 「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」についてご存じですか？
（1つ選択）

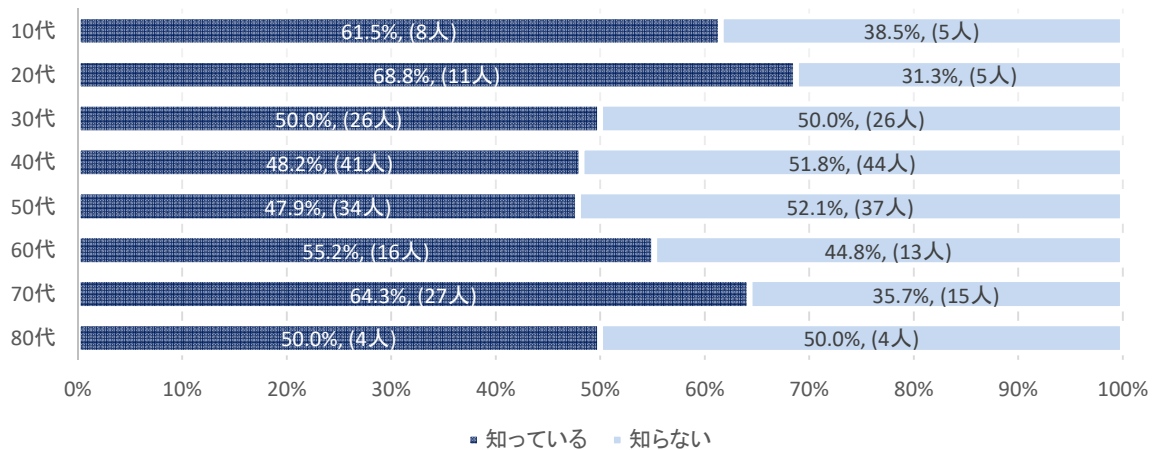
（回答者：316人）



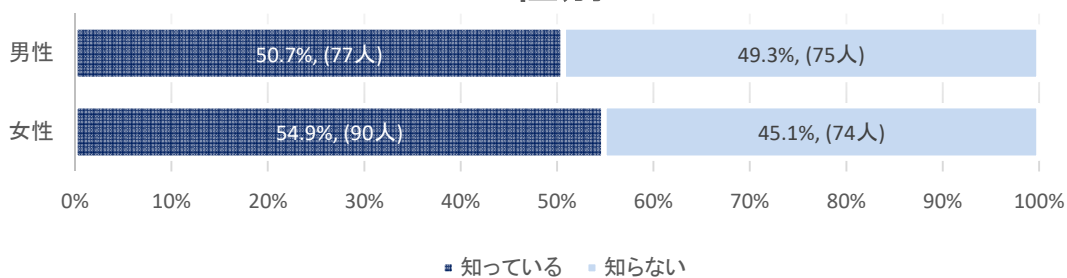
【参考】 前回調査(2019年度)
（回答者：323人）



年代別



性別

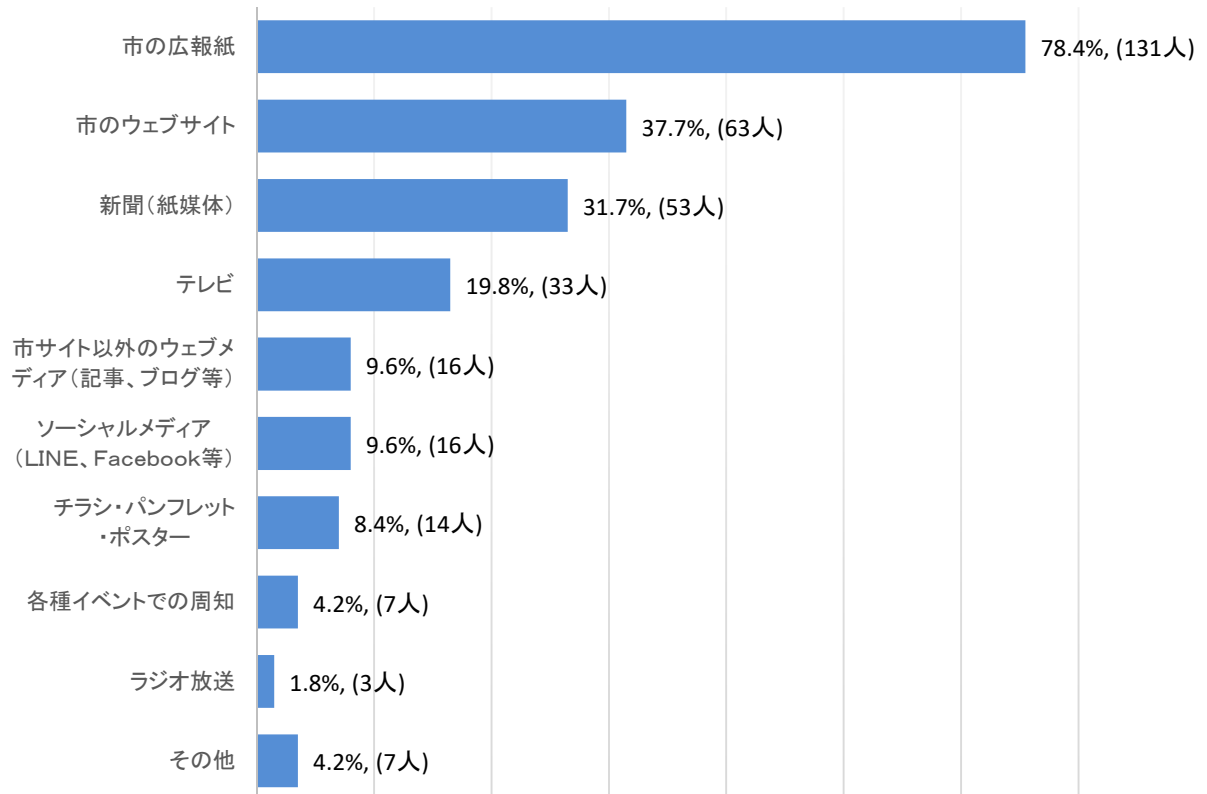


こおりやま広域圏の認知度について、全体の半数強の52.8%が知っていると回答。
年代別では、20代の認知度が68.8%で最も高く、最も低い50代でも47.9%と、年代による認知度の差は小さい。
性別では、男性の認知度が50.7%、女性の認知度が54.9%と、性別によっても大きな差は見られなかった。

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

**問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。どのような方法で
知りましたか？ (3つまで選択可)**

(回答者：167人)



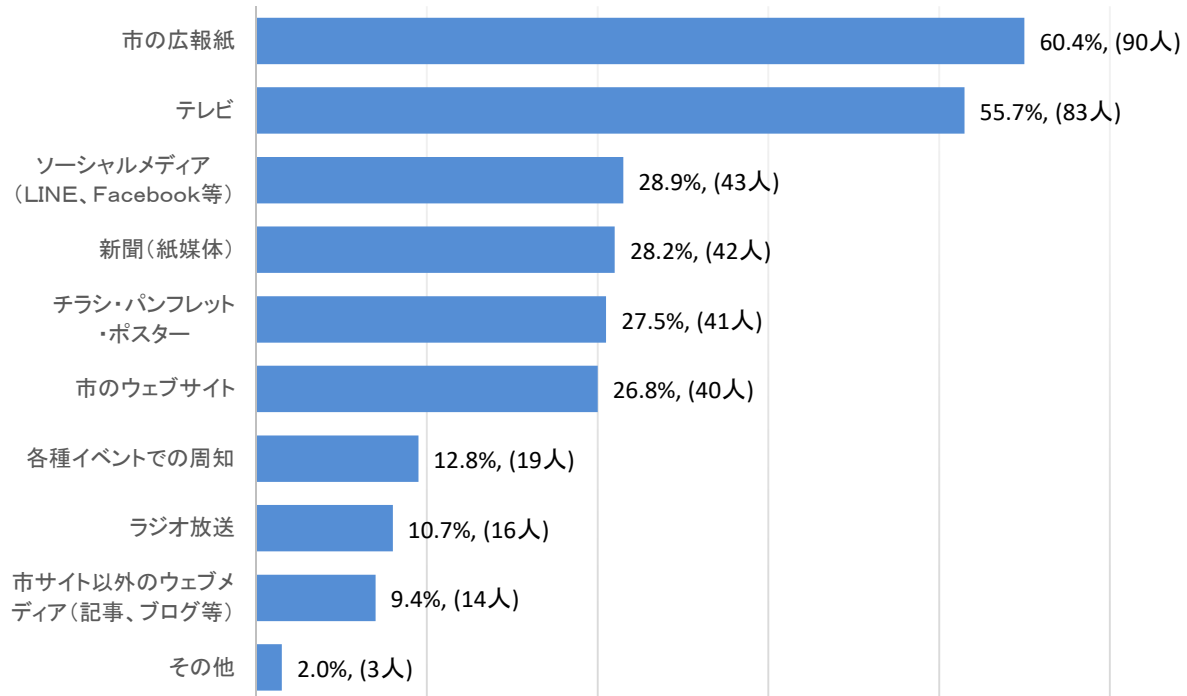
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 昨年のまちづくりネットモニター
- ・ あさかの学園大学の授業
- ・ 市の職員から直接聞いた

こおりやま広域圏を知った媒体としては、「市の広報紙」が78.4%と最も高く、次いで「市のウェブサイト」が37.7%、「新聞(紙)」が31.7%、「テレビ」が19.8%となっている。
相対的に、デジタル媒体よりも紙媒体からこおりやま広域圏の情報を得ている方が多い。

問4 問2で「知らない」を選択した方にお伺いします。周知を強化するためには、どのような方法に力を入れてほしいと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：149人）



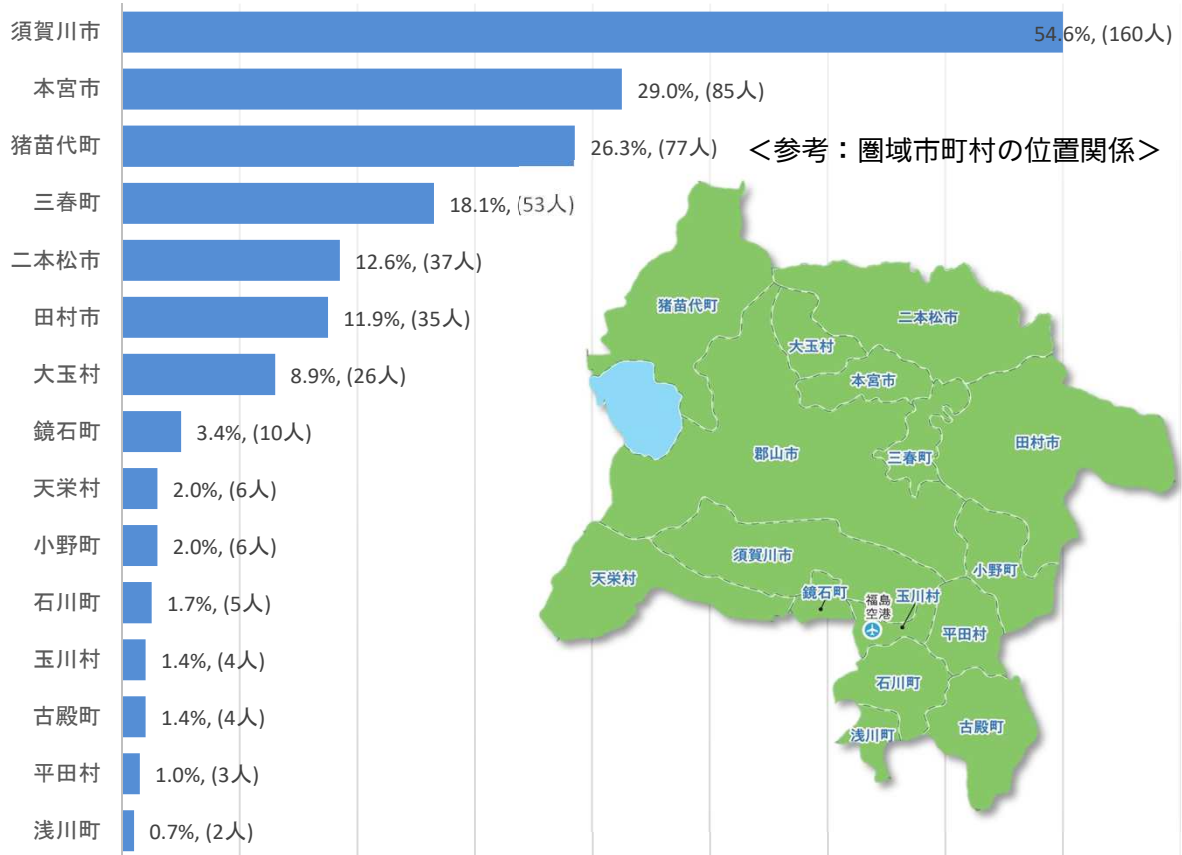
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・学校の授業
- ・CM

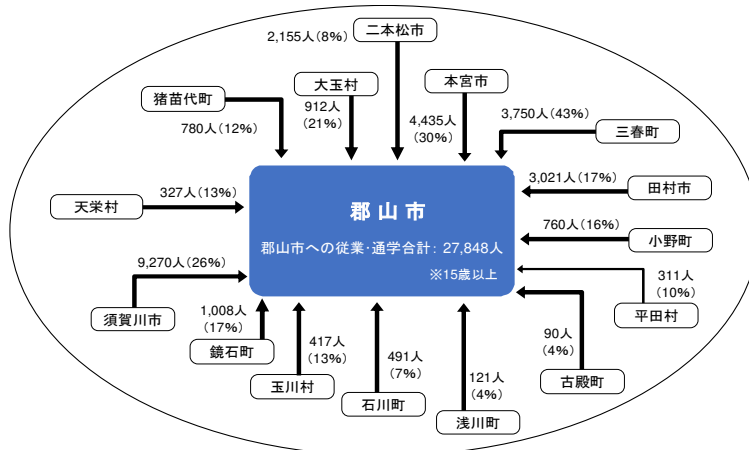
周知を強化するための方法については、「市の広報紙」が60.4%と最も高く、「新聞（紙）」の28.2%と合わせて、前設問と同様、紙媒体の需要が高いことがうかがえる。また、「テレビ」が55.7%、「ラジオ放送」が10.7%と、メディア媒体についても高い需要があることから、さらなる有効活用を検討する必要がある。なお、デジタル媒体については、「ソーシャルメディア」28.9%、「市のウェブサイト」26.8%となっており、紙媒体やテレビ等メディアとの効果的な組み合わせが今後の検討課題である。

問5-1 あなたは、現在、どの市町村と交流が深いですか？（2つまで選択可）

（回答者：293人）



＜参考：郡山市への通勤通学割合「国勢調査（2015年）」

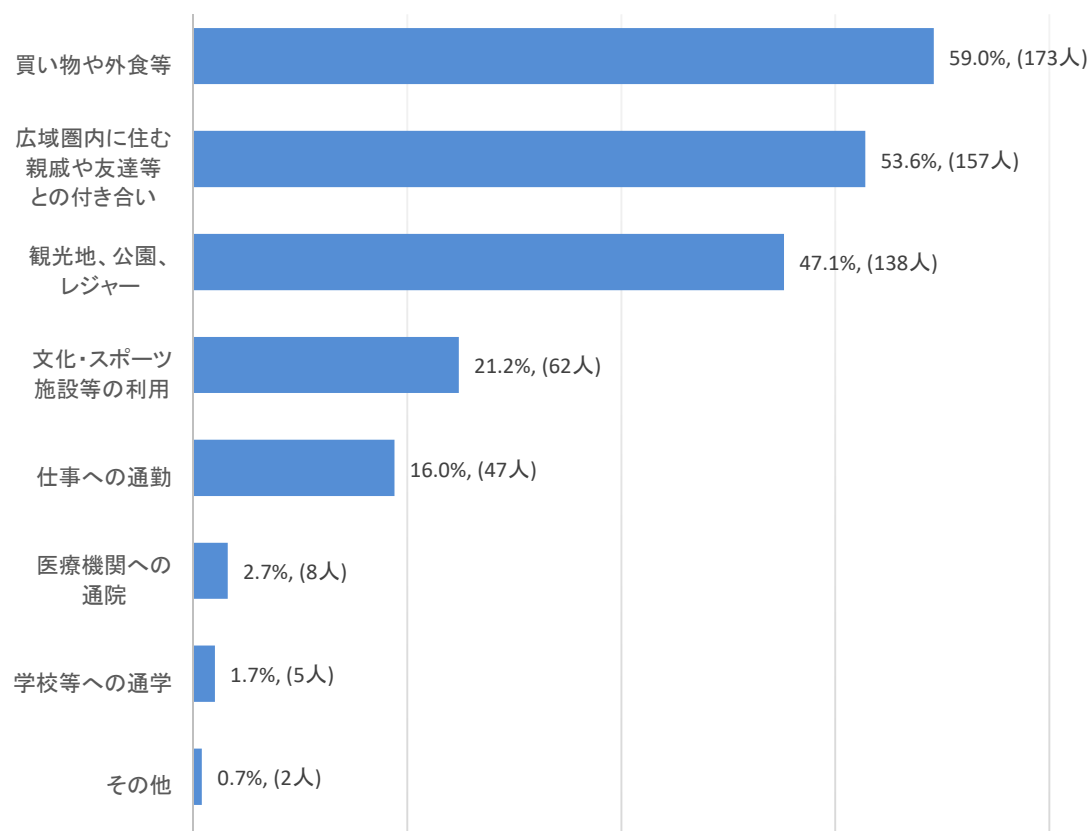


交流が深い連携市町村については、本市と隣接しており、人口も多い「須賀川市」が54.6%と最も高い。次いで「本宮市」、「猪苗代町」、「三春町」と、本市に隣接する市町村が続いており、距離的な近さ（交通アクセス）と交流人口の関連性がうかがえる。

全体としては92.7%が、こおりやま広域圏の市町村と何らかの関りをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われているといえる。

問5-2 問5-1で選択した市町村と、どのような交流をされていますか？
(2つまで選択可)

(回答者：293人)



※「その他」を選択した方の主な回答

- ・福島空港の利用

連携市町村との交流内容については、「買い物や外食」59.0%と最も高く、次いで「親戚や友達等との付き合い」53.6%、「観光地・公園・レジャー」47.1%の順になっている。

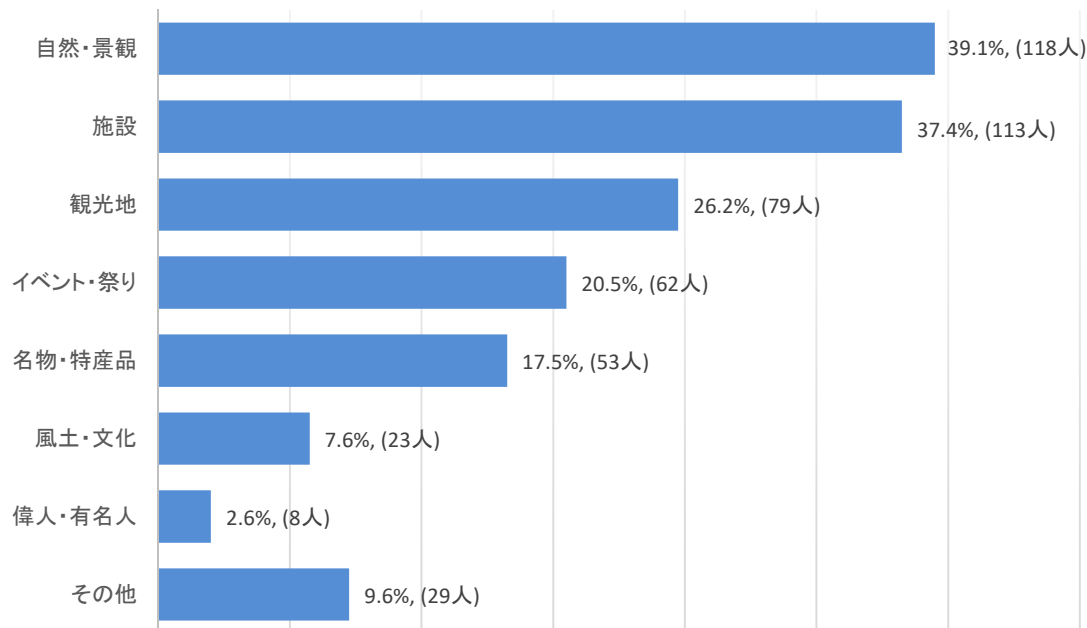
全体としては、回答者の約半数が、買い物や観光・レジャー、親戚や友人との交流等でおおみやま広域圏の市町村と関わりをもっている。

問6 こおりやま広域圏で圏域外に自慢できるような特徴は何だと思いますか？

※分類を選択後、具体的な内容を回答（2つまで選択可）

（回答者：302人）

< 分類 >



・分類別の具体的な内容（主なもの）

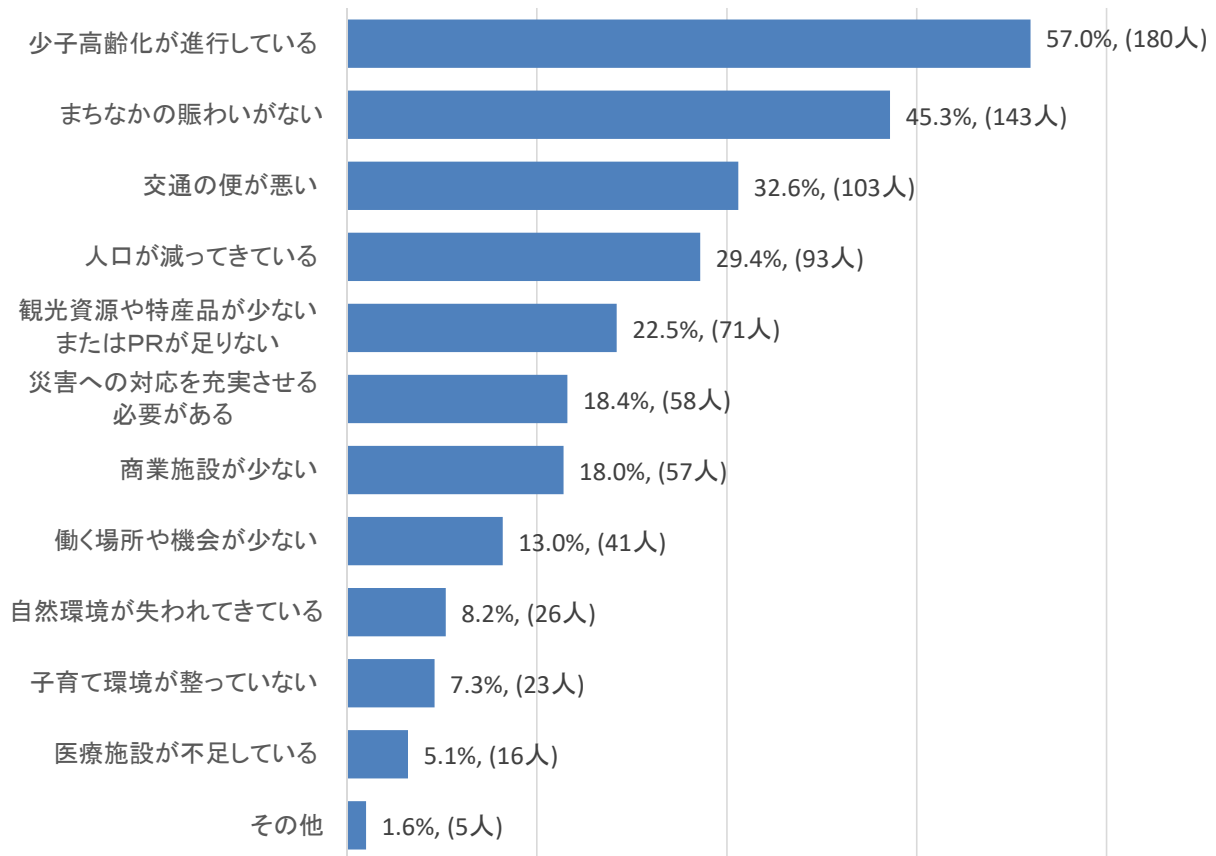
■自然・景観	山（磐梯山、安達太良山、阿武隈高原 等）、湖（猪苗代湖、羽鳥湖 等）、あぶくま洞、布引公園、行事ヶ滝、遠藤ヶ滝遊歩道、東野の清流、紅葉、蕎麦畑 等
■施設	各商業施設、集客施設（ビッグパレット、ビッグアイ（プラネタリウム）、tette 等）、公園・子どもの遊び場（ペップキッズこおりやま、みずいろ公園 等）、医療施設、美術館、文化センター、屋内プール 等
■観光地	山（磐梯山、安達太良山 等）、猪苗代湖、安積疏水、滝桜、温泉（磐梯熱海温泉、岳温泉）、大安場古墳、ゴルフ場 等
■イベント・祭り	イベント（開成山公園やビッグパレットでのイベント、二本松菊人形 等）、地域のお祭り（うねめ祭り、安積國造神社例大祭、釈迦堂川花火大会、松明あかし、二本松提灯祭り 等）
■名物・特産品	日本酒、米、野菜、果物、鯉料理、各地の銘菓、ウルトラマン 等
■風土・文化	安積疏水、柳橋歌舞伎、奥州街道 等
■偉人・有名人	偉人（後藤新平）、有名人（西田敏行） 等
■その他	交通の利便性、経済規模、医療機器産業 等

圏域外に自慢できるような特徴については、「自然・景観」と回答した方が39.1%で最も高く、具体例についても山、湖、紅葉など様々な種類があげられ、四季折々の自然が楽しめる環境を魅力と感じている方が多い。

次いで、郡山市のビッグパレットや須賀川市のtette等の「施設」、三春の滝桜等の「観光地」、二本松市の菊人形等の「イベント・祭り」の順となっている。

問7 現在、こおりやま広域圏において「共通課題」と感じるのは、どのような
ものですか？（3つまで選択可）

（回答者：316人）



※「その他」を選択した方の主な意見

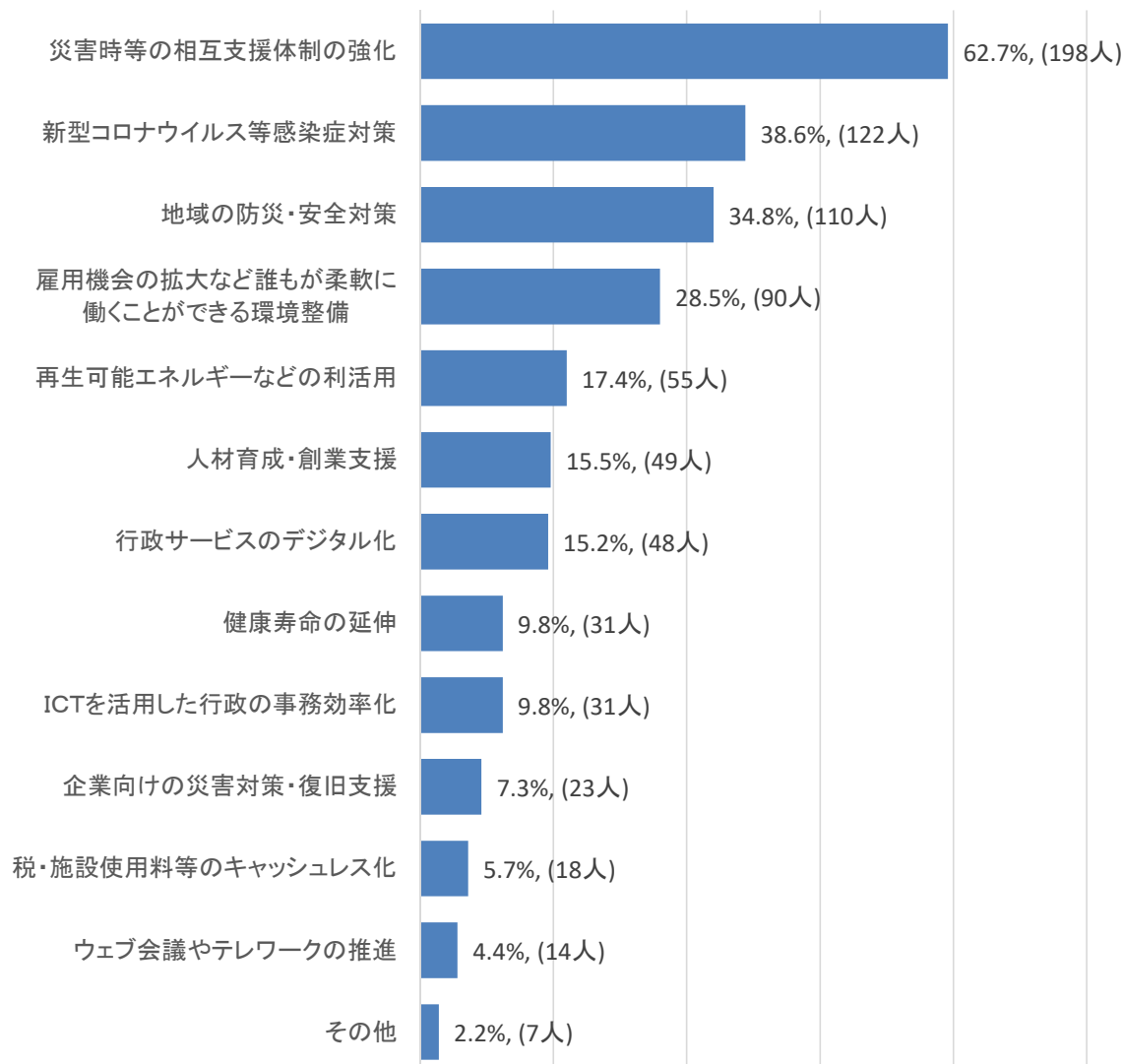
- ・よいものは沢山あるのに点在しており、相互につながっていない
- ・子どもの学力・体力低下
- ・人口分布に偏りがある

こおりやま広域圏の「共通課題」と感じるものについては、「少子高齢化が進行している」が57.0%と最も高く、次いで「まちなかの賑わいがない」45.3%、「交通の便が悪い」32.6%、「人口が減ってきている」29.4%の順となっている。

人口減少・少子高齢時代を迎える中で、まちなかの活性化や公共交通など住民の足の確保などが課題と認識されている。

問8 こおりやま広域圏では、特に次に掲げる事項に取り組んでいきたいと考えていますが、どのような取り組みの連携が重要だと思いますか？
(3つまで選択可)

(回答者：316人)



※「その他」を選択した方の主な意見

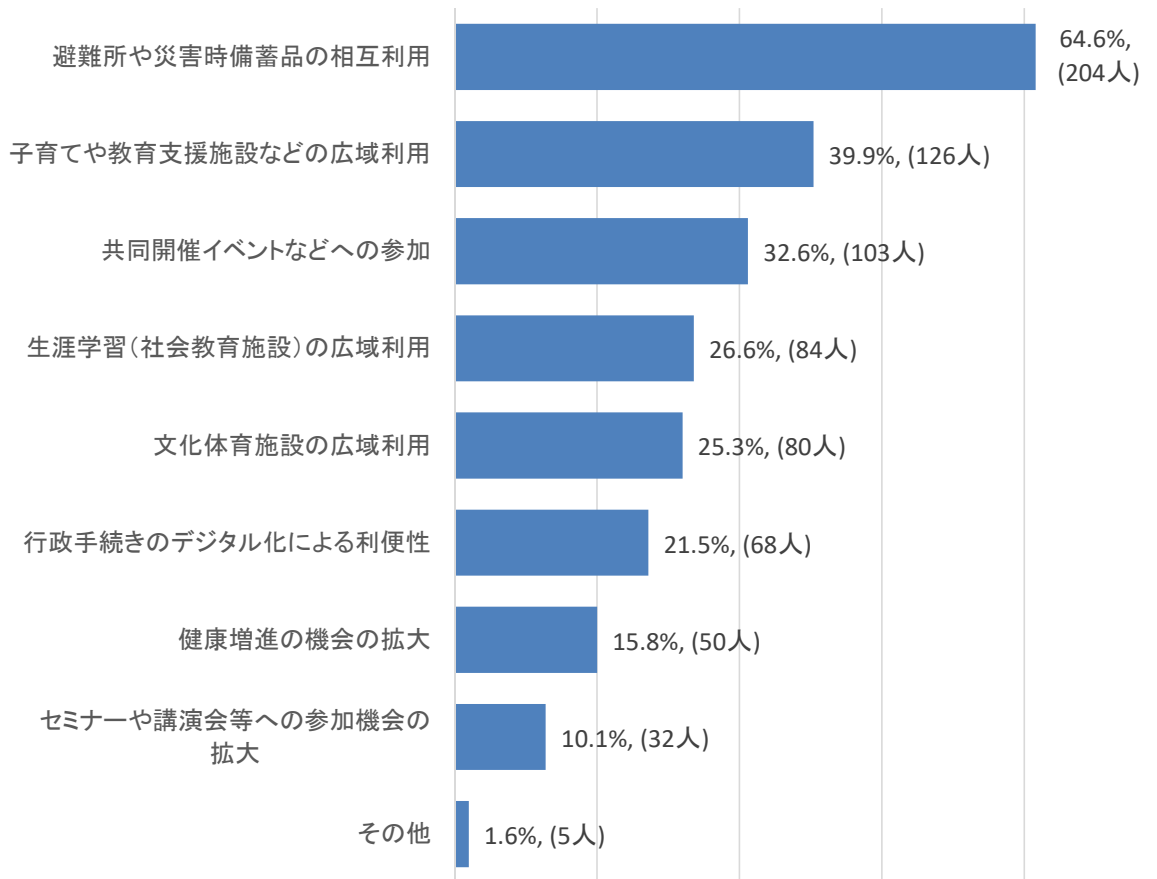
- ・医療体制の連携と発達
- ・休耕地の活用
- ・少子化対策・教育面での連携

連携が重要だと考える分野としては「災害時等の相互支援体制の強化」が62.7%で最も高く、次いで「新型コロナウイルス等感染症対策」が38.6%、「地域の防災・安全対策」が34.8%となるなど、2019年の東日本台風をはじめ近年多発する豪雨災害等に加え、感染症拡大への対策を重要視する傾向が見られる。

次いで「雇用機会の拡大など誰もが柔軟に働くことができる環境整備」28.5%、「再生可能エネルギーなどの利活用」17.4%、「人材育成・創業支援」15.5%と続いているが、全体的に回答が分散しており、産業、環境、行政事務効率化等、幅広い分野において関心が持たれている。

問9 こおりやま広域圏が連携することによってどのようなサービスが受けられると良いと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：316人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・連携による域内の物価抑制

受けたいサービスの分野としては、「避難所や災害時備蓄品の相互利用」が64.6%で最も高く、2019年の東日本台風をはじめ近年多発する豪雨災害等から、防災への意識が高まっている。

次いで「子育てや教育支援施設などの広域利用」39.9%、「共同開催イベントなどへの参加」32.6%、「生涯学習（社会教育施設）の広域利用」26.6%と続いており、市町村間での双方向的な交流のため、施設やイベント等の広域利用を求める傾向が見られる。

問10 「連携中枢都市」（こおりやま広域圏の中心となる都市）である郡山市が特に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（自由記述）

（回答者：191人）

回答事例（主なもの）	
■リーダーシップ・まとめ役・交流促進等	<ul style="list-style-type: none"> ・連携中枢都市として圏域全体の発展のけん引 ・行政サービスの広域化・デジタル化の推進 ・連携の効果が大きい優れた企画を考え、推進・実行する力 ・連携市町村の状況把握 ・ハブとして広域圏の連携強化 ・相互に協力・共有できる組織づくり 等
■産業の促進等	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の利便性を活かした観光政策立案 ・経済県都として圏域の経済発展のための中核 ・自然・観光・娯楽施設の誘致 等
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・連携市町村を巻き込んだPRの実施 ・観光ルートづくりと発信 ・県、国に対する意見（要望）を積極的に発信 等
■安心安全（防災等）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策の連携 ・災害時の迅速かつきめ細かな対応マニュアルの策定（情報提供、物資、避難所、ボランティア 等） ・治安の強化 等
■医療関連の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療（夜間医療）の連携 ・妊活・出産・育児の支援 ・新型コロナウイルス対策の連携 ・救急医療体制の整備 等
■交通の充実等	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の整備 ・交通拠点としてのまちづくり ・定期観光バスの周遊 等
■イベント実施	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便を活かしたイベント拠点 ・連携市町村を巻き込んだイベントの実施 ・多様な飲食店を活かした連携市町村への出張販売 等
■その他	<ul style="list-style-type: none"> ・広域を意識した都市計画の連携 ・連携市町村を増やし、連携のさらなる活性化 ・文化の振興 ・県に準ずる機能の集中化 等

郡山市が特に求められる役割について、リーダーシップやまとめ役等に関する回答が多く、連携中枢都市として圏域全体の発展をけん引することが期待されている。他にも、産業や医療、交通といった都市基盤の整備、住民手続きの利便性向上等、様々な回答が見られた。

問11 郡山市以外の連携15市町村に求められる役割はどのようなものかと思えますか？（自由記述）

（回答者：186人）

回答事例（主なもの）	
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に居住している方のSNSを紹介するなど、地元住民ならではの情報発信 ・地域の歴史を掘り起こして分かりやすく面白く発信 ・情報誌の発行 ・マニアックな面白さを発信 ・郡山駅前にこおりやま広域圏情報の発信基地を設置 等
■それぞれの強み、特性の発揮等	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町村が中心であり、周辺という意識を持たない ・自然環境、観光といった強みのPR ・各市町村の歴史、文化の普及 ・郡山市任せでなく自主的に動く ・地域の特色を生かしたイベントや物販 ・郡山市街では得られない自然豊かな生活・子育て環境 等
■連携への理解・協力等	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの共同開催 ・施設等の地域資源の相互利用と連携 ・災害時の迅速かつ柔軟な連携、避難所としての役割 ・行政サービスの広域化 ・郡山市を中心とした円形構想の拡大化 等
■観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市を宿泊拠点とし各市町村へ観光誘客 ・各市町村の祭、伝統芸能、景勝地、美味しいものをPR ・地域間の連携した観光スポットの開発と発信 ・共同音楽祭の実施 等
■特産品等	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の特産品等の県内外へのPR ・特産品等のニーズ調査、販路拡大 ・共同物産展の実施 等
■その他	<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能と自然の融和 ・自然環境の保護、休耕地等の活用 ・地域の伝統・文化の継承 ・郡山市は何でも揃っているのも積極的に利用してほしい 等

郡山市以外の連携市町村に求められる役割について、「情報発信」に関する回答が最も多く、地域の歴史や魅力が広域圏内外にしっかり伝わっていないという実感を持っている方が多いと見受けられる。

一方で、「それぞれの特性、強みの発揮等」に関する回答も多く、郡山市の取組に賛同するだけでなく各市町村が主体的に参画し、強みを生かした役割を果たすことが求められている。

その他、伝統文化や豊かな自然の保護といった、都市部にはない「田舎のよさ」があげられる等、幅広い回答が見られた。

問 12 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：59人）

（主な意見）

■ 連携のあり方について
<p>・まず災害時の相互支援体制の構築、衣料品や医薬品、備蓄品などの相互供給、避難場所の提供などができればいいと思います。（50代・女性）</p>
<p>・福島県は何かと縦割りが強いと感じるので、せっきくの広域連携を活かせるよう、様々な制度の見直しや新設など、住民の皆さんがメリットを感じられる暮らしやすいまちづくりを進めてほしいと思います。特に住民減少が進む町村に恩恵が行くようにしてほしいです。（50代・女性）</p>
<p>・災害時の対応や地域活性化を図るうえで近隣市町村との連携は欠かせないと思います。個人的に二本松市や猪苗代町へは頻繁に出かけますが、正直広域圏内の住民であるメリットは感じたことがありません。イベントや施設での優待が「市内在住者」となっているうちは普段の生活の中での広域圏のメリットは生まれません。積極的に「広域圏」を表に出していくべきだと思います。（70代・男性）</p>
■ 産業経済、都市機能の向上について
<p>・広域圏や圏域外の方にも来てもらえるような魅力的な商業施設（アウトレット、コストコ等）を、利便性の良いインター近くに誘致すべきだと思います。（40代・女性）</p>
<p>・須賀川市のtetteのような複合施設を郡山市にもつくって、こおりやま広域圏に広く開放してもらえたら嬉しいです。コロナウイルスが流行する前は、tetteによく行っていて、わいわいパークや図書館を利用していましたが、イベントは須賀川市民だけと制限されていることも多く、残念な思いをしています。（60代・女性）</p>
<p>・郡山駅前がどんどん廃れていると感じます。夜のお店や駐車場だけでなく、シネコンの誘致など駅前に人が集まるようにしてほしいです。（40代・女性）</p>
■ 広域圏の認識と情報発信について
<p>・若年層にも伝わりやすい情報発信の仕方をご検討いただければ、より良いと考えます。（40代・女性）</p>
<p>・現状ではあまり連携していることが分かりにくいので、各地域の特色を集約して、共通でイベントができるような企画が必要と考えます。（60代・男性）</p>
<p>・連携がとればとれるほど、災害時の対策の幅が広がるとは思います。周知の部分で足りないと思うので、もっとSNSなどを活用して広めていく必要があると思います。（50代・男性）</p>
■ 住民サービスの向上について
<p>・高齢者健康長寿サポート事業などは、広域圏内で同様の事業があれば相互に利用できるようにしてほしいです。（60代・女性）</p>
<p>・図書館をよく利用させていただいていますが、二本松市の図書も利用可能になったとうかがいました。地域が拡大すれば、図書の共有ができて、より多くの図書を網羅することができると思うとワクワクします。小さな図書館がネットで繋がり大きな図書館になったら素晴らしいと思います。（60代・男性）</p>
<p>・子どもを含む次世代を担う若い人材が育つ、とどまる、生活しやすくなるのが非常に重要だと思います。高齢化対策も重要ですが、そればかりに予算がつかわれては先がないと感じます。（70代・男性）</p>

2020年度まちづくりネットモニター第11回調査結果
 テーマ「自然環境・生物多様性について」



全ての生物には個性があり、お互いにつながりを持っていることを「生物多様性」といいます。わたしたち人間を含むすべての生き物は、生物多様性をもたらすたくさんの自然環境の恵みによって、お互いの「いのち」と「暮らし」を支えあっています。

また、それぞれの地域には特有の自然環境や風景があり、それが地域の文化と結びついて地域に固有の風土を形成しています。

魅力的な地域づくりを進めていくためには、こうした自然的・社会的な条件に応じた生物多様性をもたらす自然環境を保全するための取り組みが必要です。

そこで、市民の皆さまが自然環境と普段どのように接し、どのように評価・保全しているか等を把握し、本市の自然環境・生物多様性に関する施策を推進するための検討資料とするため、アンケートを実施しましたのでその結果についてお知らせします。（環境政策課）

調査概要

- 調査期間 令和2年11月4日(水)～11月13日(金) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 318名 (男性 151名 女性 167名)
- 回答率 88.3%

【分析】

≪回答者内訳：年代≫

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	6	5	15	30	33	15	40	7	151
女性	8	9	40	55	37	15	2	1	167
合計	14	14	55	85	70	30	42	8	318

≪回答者内訳：地区≫

地区	旧市	富田	大槻	安積	三穂田	逢瀬	片平	喜久田	日和田	富久山	湖南	熱海	田村	西田	中田	市外	合計
男性	66	19	14	23	1	0	2	7	3	13	0	0	3	0	0	0	151
女性	67	13	24	16	1	3	3	7	2	16	2	3	4	3	0	3	167
合計	133	32	38	39	2	3	5	14	5	29	2	3	7	3	0	3	318

≪生物多様性について≫

「生物多様性」という言葉について、全体の7割程度が「知っている」「聞いたことがある」と回答し、「生物多様性」の危機について、全体の7割程度が「知っている」「聞いたことがある」と回答した(問5・6)。生物多様性保全の取り組みを重点的に行うべき地域について、6割以上が「人と自然が関連し合う里地里山」と回答し、産業発展との両立については、7割以上が「産業発展も生物多様性もともに重要であり両立させる方法を考えるべき」と回答した(問7・8)。

「見かけなくなった」動植物の上位に、「トンボ(31件)」「ホタル(29件)」が挙げられ、「見かけるようになった」動植物の上位に、「カラス(37件)」「セイタカアワダチソウ(23件)」が挙げられた(問9・10)。

今後市が力を入れるべきこととして、「環境教育」「普及・啓発」が全体の5割以上であった(問15)。市内における自然環境保全活動について、全体の8割以上が「趣旨に賛同できれば」も含め、「参加したい」と回答した(問16)。

≪外来種について≫

外来種については、国内由来のものも含まれていることを、全体の8割が「知っている」「聞いたことがある」と回答した(問11)。

外来種への取り組みとしては、「防除・駆除」が46.5パーセント、「野外に放すこと、植栽等の禁止」が26.7%であった(問12)。

【考察】

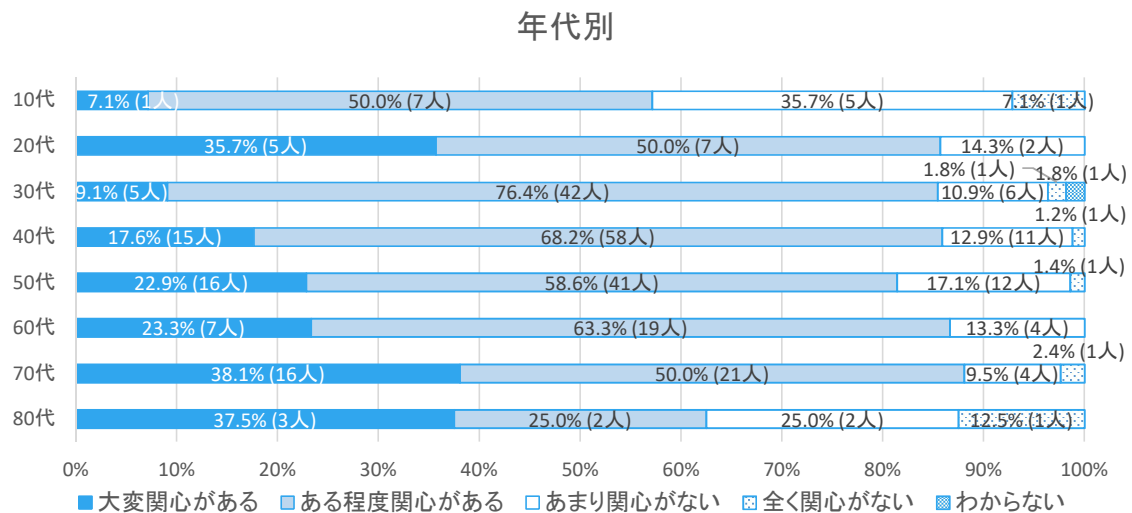
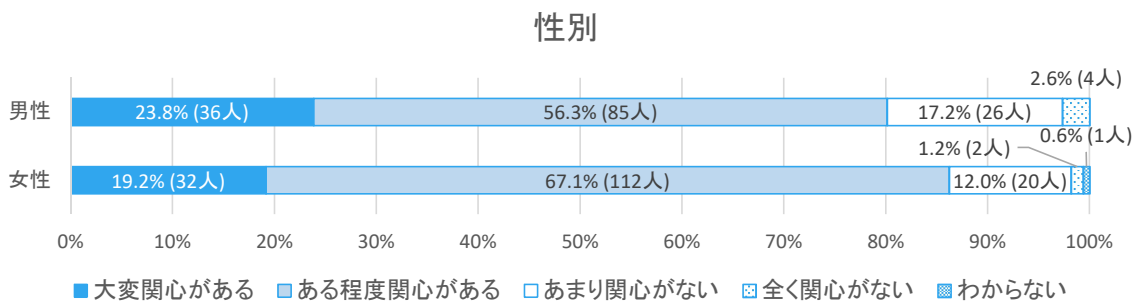
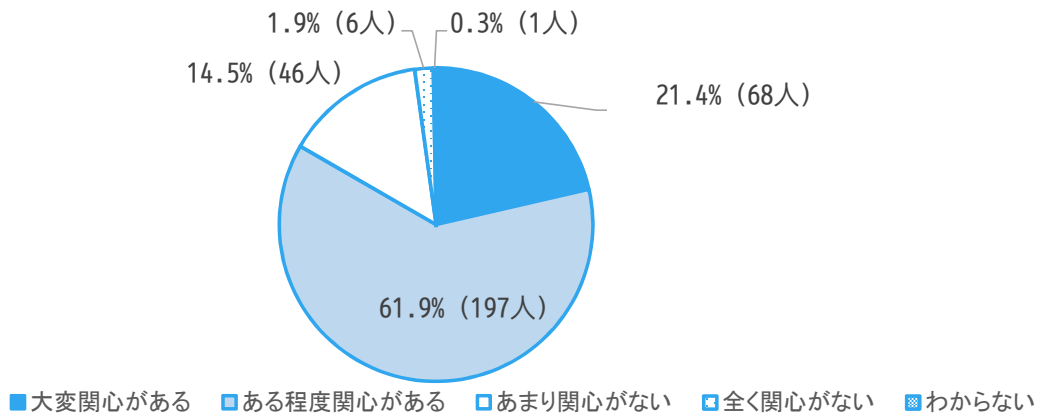
・「生物多様性」の危機及び国内由来のものも含めた外来種問題については、知っている、聞いたことがある方が多く、自然環境についての関心が高いことが推測できる。外来種については、むしろ「見かけなくなった」と思う動植物についての回答に「ザリガニ」が10件あるなど、外来種が生活に定着しているとも推測できる。

・生物多様性保全の取り組みを重点的に行うべき地域として「人と自然が関連し合う里山」との回答が多く、また、「見かけなくなった」「見かけるようになった」動植物は生活に身近な個体名が比較的多くみられ、人と自然が共存する地理的特徴を多く持つ郡山市において、住民の生活に密接に関係する生物の多様性及び外来種について、環境教育及び普及・啓発活動に取り組んでいくことが重要と考えられる。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 郡山市の生き物の環境について

問1 あなたは、自然環境についてどの程度関心がありますか？（1つ選択）
（回答者：318人）

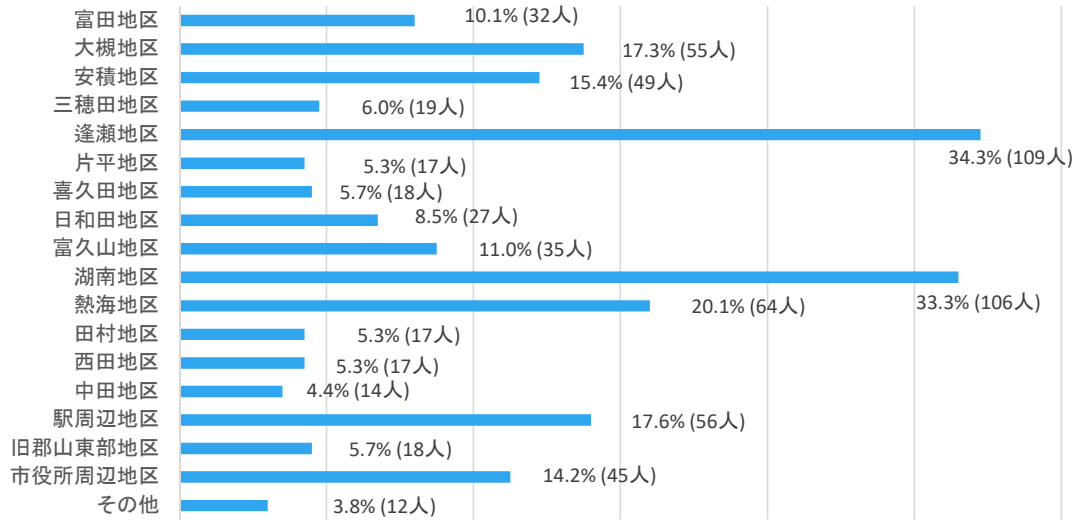


全体の21.4%が「大変関心がある」、61.9%が「ある程度関心がある」と回答し、両方で全体の8割を超えており、「自然環境」に対する関心は比較的高いことが読み取れる。

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

問2 自然環境のうちあなたが最も愛着を持つ地域はどこですか？
(3つまで選択可)

(回答者：318人)



《参考：回答者在中地区ごとの回答》

		回答者住地区																合計
		旧市	富田	大槻	安積	三穂田	逢瀬	片平	喜久田	日和田	富久山	湖南	熱海	田村	西田	中田	市外	
最も愛着を持つ地区	富田	18	3	2	0	1	0	0	2	1	3	0	0	0	1	0	1	32
	大槻	23	6	9	4	0	0	0	2	1	7	0	0	3	0	0	0	55
	安積	20	7	9	7	1	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	49
	三穂田	10	2	1	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	19
	逢瀬	48	9	14	17	0	1	2	5	1	5	1	2	3	1	0	0	109
	片平	6	1	2	2	0	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	17
	喜久田	7	1	3	0	0	0	1	0	0	4	0	0	1	1	0	0	18
	日和田	9	4	5	1	0	0	1	2	0	4	0	0	0	1	0	0	27
	富久山	10	4	5	5	0	1	2	3	1	4	0	0	0	0	0	0	35
	湖南	45	9	10	15	1	2	2	4	1	7	2	2	3	1	0	2	106
	熱海	23	6	7	11	0	0	1	4	2	5	2	0	1	0	0	2	64
	田村	5	4	2	1	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	17
	西田	5	1	2	7	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	17
	中田	6	2	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	14
	駅周辺	27	6	8	9	0	0	0	1	0	4	0	1	0	0	0	0	56
	旧郡山東部地区	4	1	0	7	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	0	1	18
	市役所周辺地区	26	5	4	4	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	45
その他	4	2	1	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	12	
合計	296	73	84	95	3	7	10	33	10	58	6	7	16	6	0	6	710	

◆「その他」を選択した方の主な意見

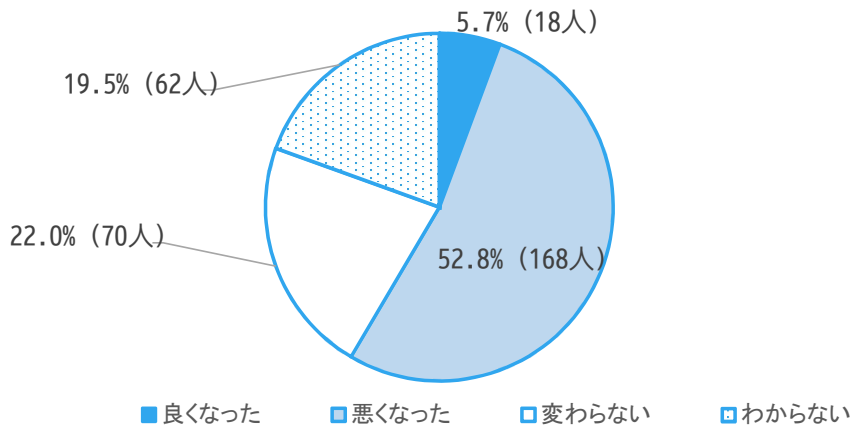
- ・開成地区、緑ヶ丘地区
- ・菜根地区
- ・麓山周辺
- ・並木、西ノ内周辺
- ・五百淵公園
- ・久留米
- ・小原田
- ・市全体
- ・旧市内公園

「逢瀬地区」「湖南地区」「熱海地区」との回答が多かった。次いで多い回答が「駅周辺地区」であった。

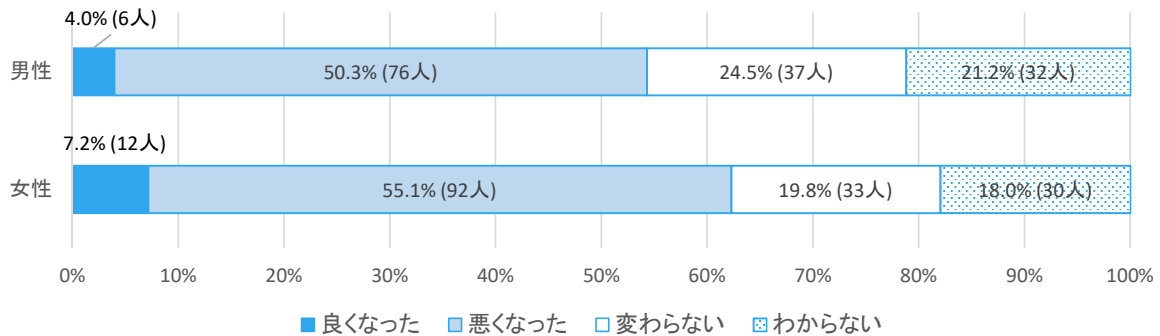
回答が多かった3地区については、それぞれ森林が多く、また、逢瀬地区には逢瀬公園、浄土松公園が、湖南地区には猪苗代湖が、熱海地区にはふれあい牧場と、それぞれに市民が余暇を過ごす場所があるため、自然環境に愛着がある地区として回答したものと読み取れる。

問3 あなたの身近な自然環境について、以前に比べて（幼少の頃と比べて）どのように変わったと思いますか（1つ選択）

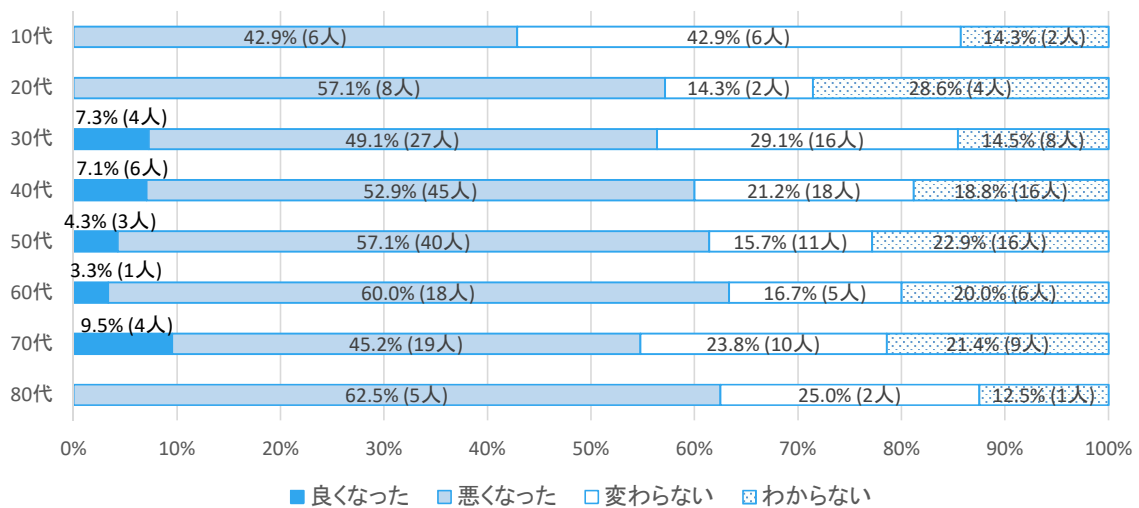
（回答者：318人）



性別



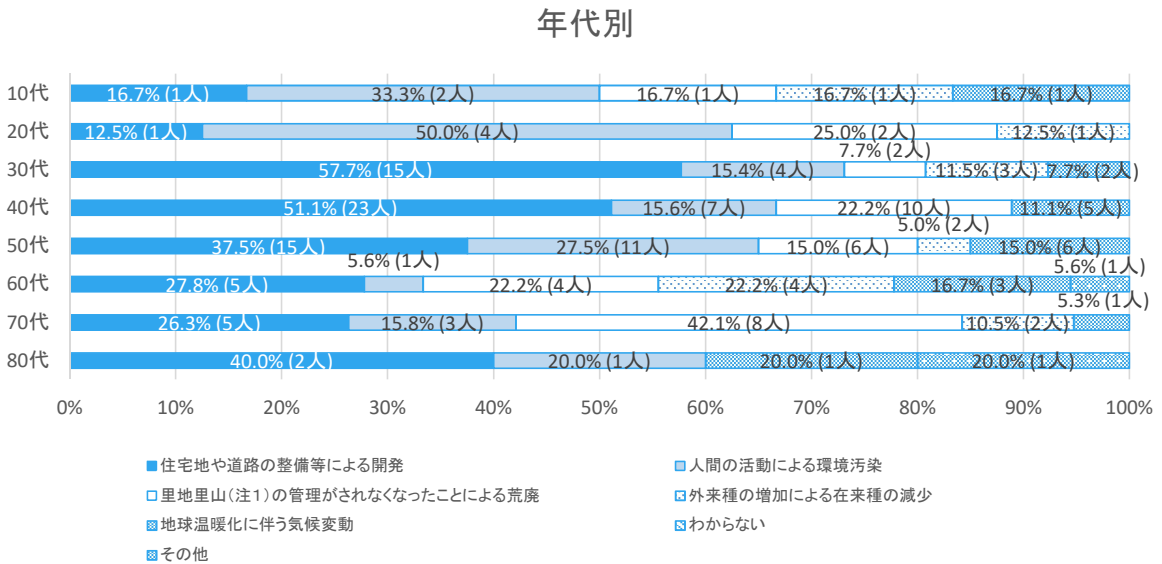
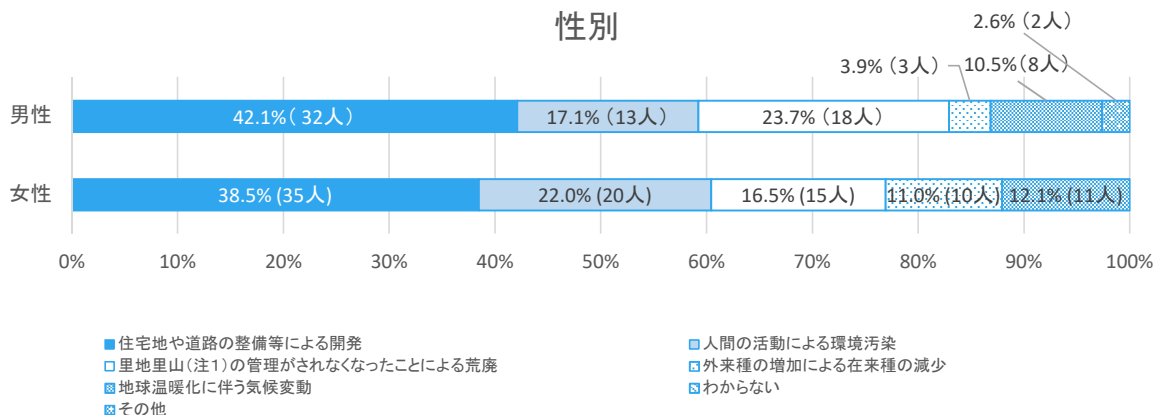
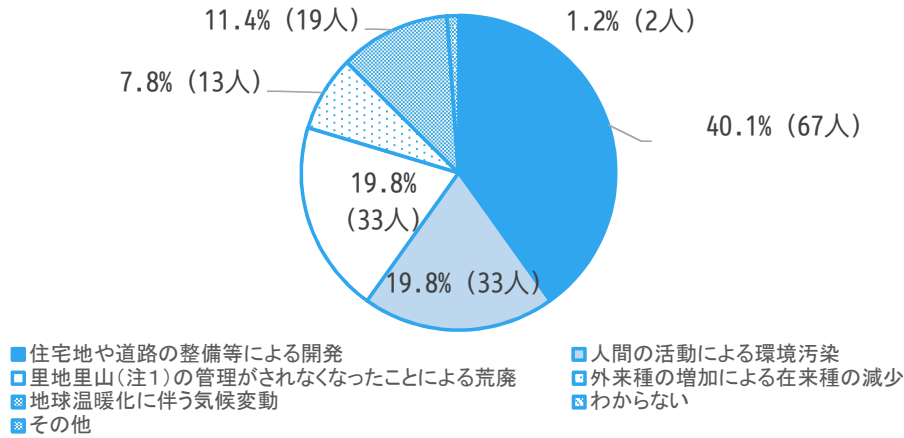
年代別



全体の52.8%が「悪くなった」と回答している。全体の41.5%が「変わらない」「分からない」と回答しており、「良くなった」との回答は5.7%である。なお、20代以下での「良くなった」との回答は全く無かった。比較的多くの方が身近な自然環境は悪くなったと思っていることが読み取れる。

問4 問3で「悪くなった」を選択した方にお伺いします。悪くなったと思う理由は何ですか？（1つ選択）

（回答者：167人）※1人未回答



◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・整備されすぎた公園

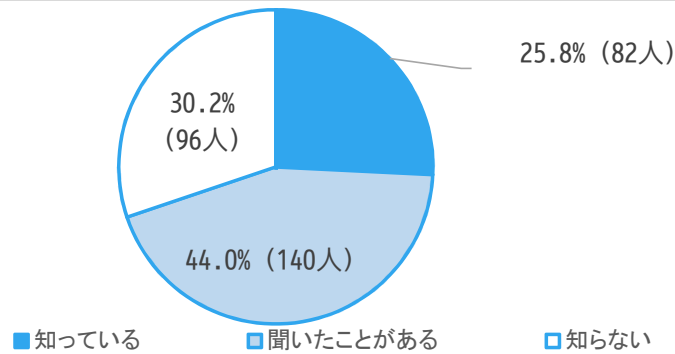
全体の40.1%が「住宅地や道路の整備等による開発」、19.8%が「人間の活動による環境汚染」、19.8%が「里地里山の管理がされなくなったことによる荒廃」と回答しており、人間の活動による影響と思う回答が約7割であった。

（注1）【解説】「里地里山」とは？

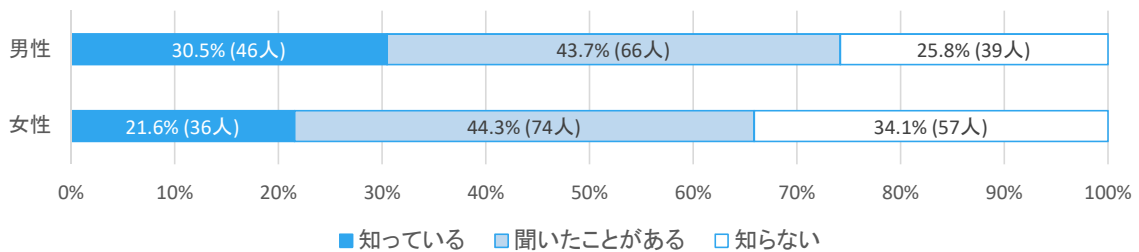
原生的な自然と都市との間に位置し、長い歴史の中で人間のさまざまな働きかけを通じ、集落とそれを取り巻く二次林、農地、ため池、草原等で構成された地域

問5 「生物多様性」という言葉をご存じですか？（1つ選択）

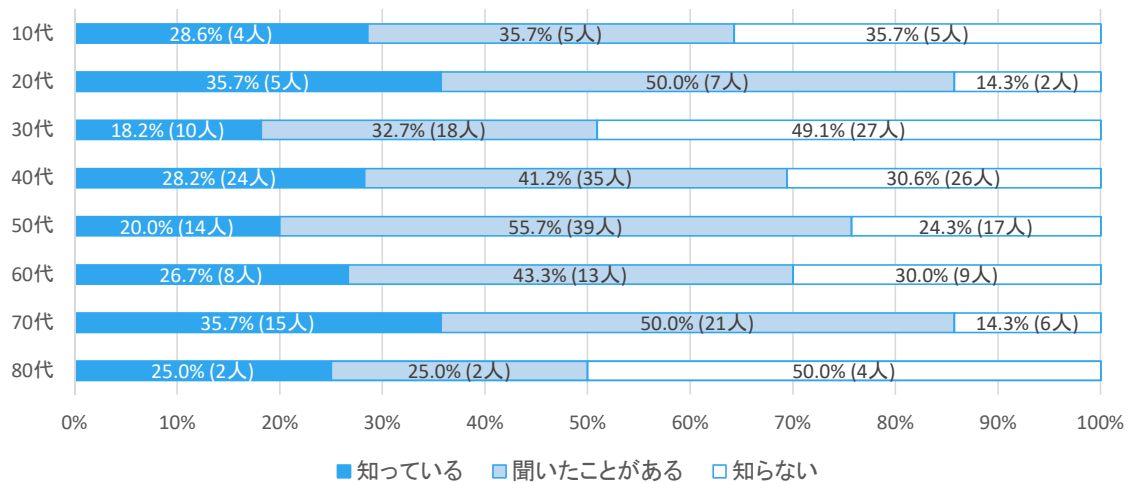
（回答者：318人）



性別



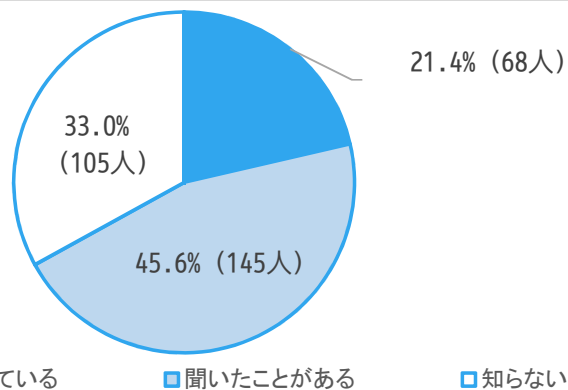
年代別



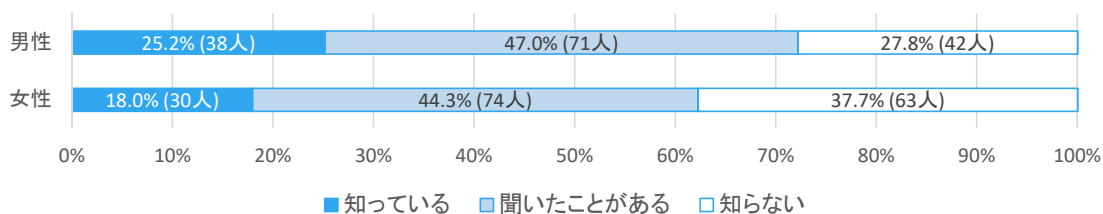
全体の25.8%が「知っている」、44.0%が「聞いたことがある」と回答し、両方で全体の7割程度であり、多くの方が「生物多様性」という言葉を少なくとも聞いたことがあるということが読み取れる。

問6 「生物多様性」の危機(注2)についてご存知ですか?(1つ選択)

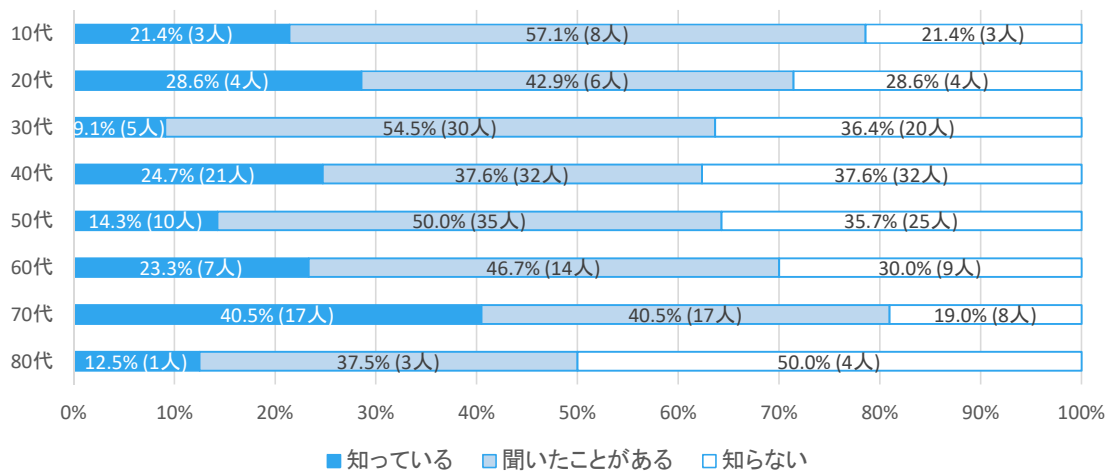
(回答者: 318人)



性別



年代別



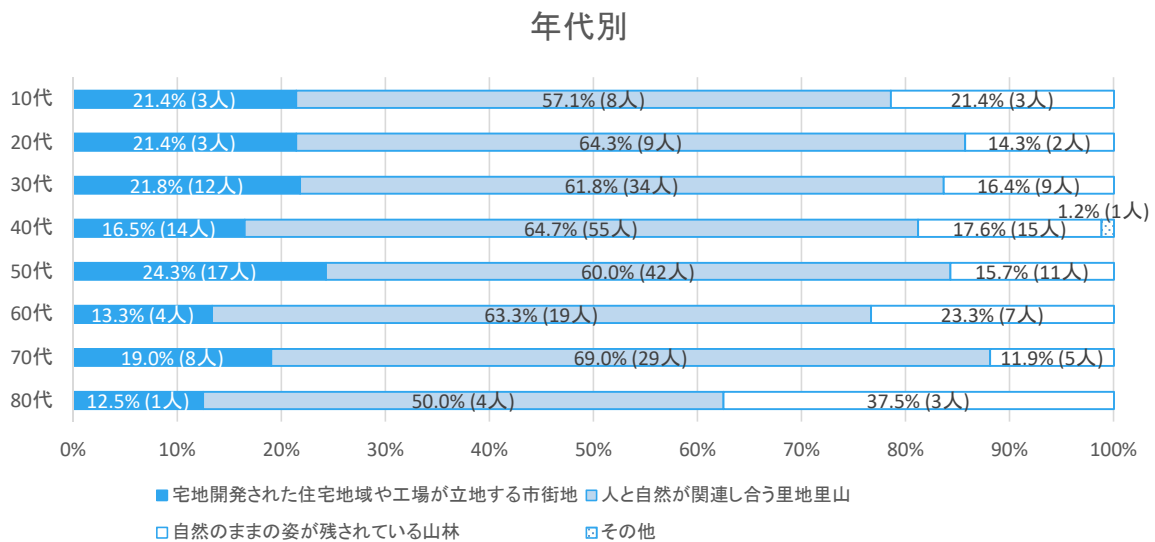
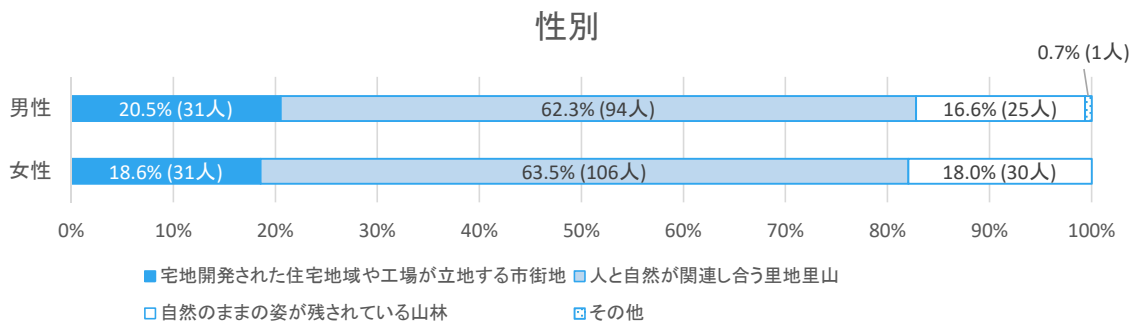
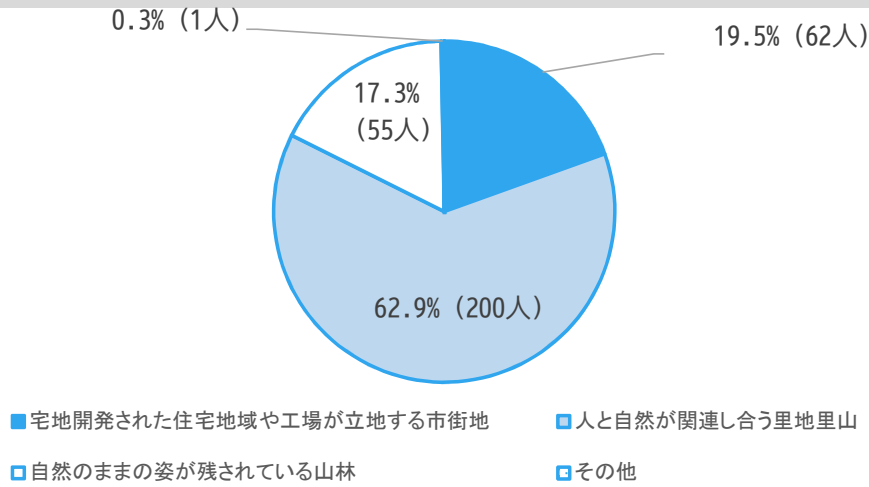
全体の21.4%が「知っている」、45.6%が「聞いたことがある」と回答し、両方で全体の7割程度であった。

(注2) 【解説】「生物多様性の危機」については、4つの危機があります。

- 第1の危機 人間活動による危機
乱獲、開発による生息環境の悪化・破壊
- 第2の危機 自然に対する働きかけの縮小による危機
二次林や採草場が利用されなくなったことによる生態系バランスの崩壊
- 第3の危機 人間により持ち込まれたものによる危機
外来種による在来種への影響
- 第4の危機 地球環境の変化による危機
地球温暖化に伴う気候変動による影響

問7 郡山市には、市街地、里地里山及び山林等、多様な特性を持つ地域があります。生物多様性保全の取り組みを行う上で、重点的に行わなければならないと思う地域はどこですか？（1つ選択）

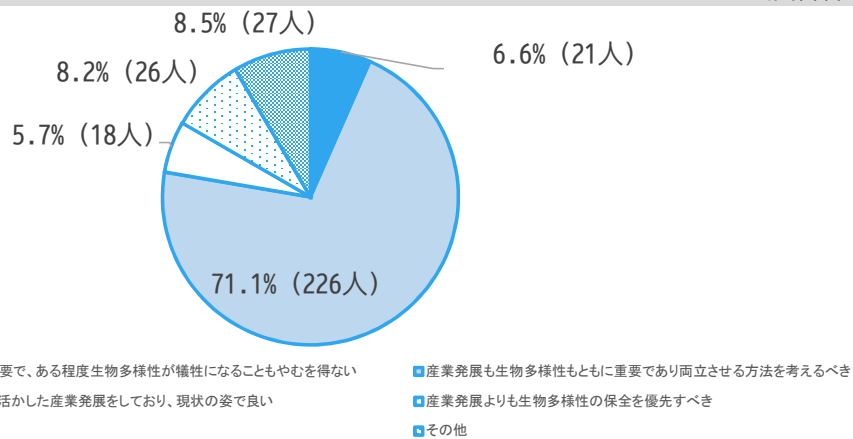
（回答者：318人）



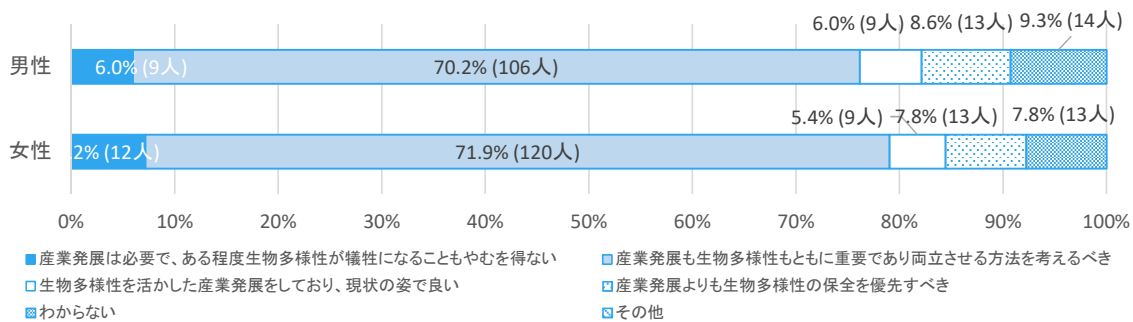
一番多い割合である62.9%が「人と自然が関連し合う里地里山」と回答した。「まち」と「里地里山」で、人間が住むところにおいて対策を重点的に行わなければならないと思っていることが読み取れる。

問8 住宅用地や商工業用地などの開発の増加により、生物多様性が失われるケースが見られます。産業発展と生物多様性の両立についてどのようにお考えですか？
(1つ選択)

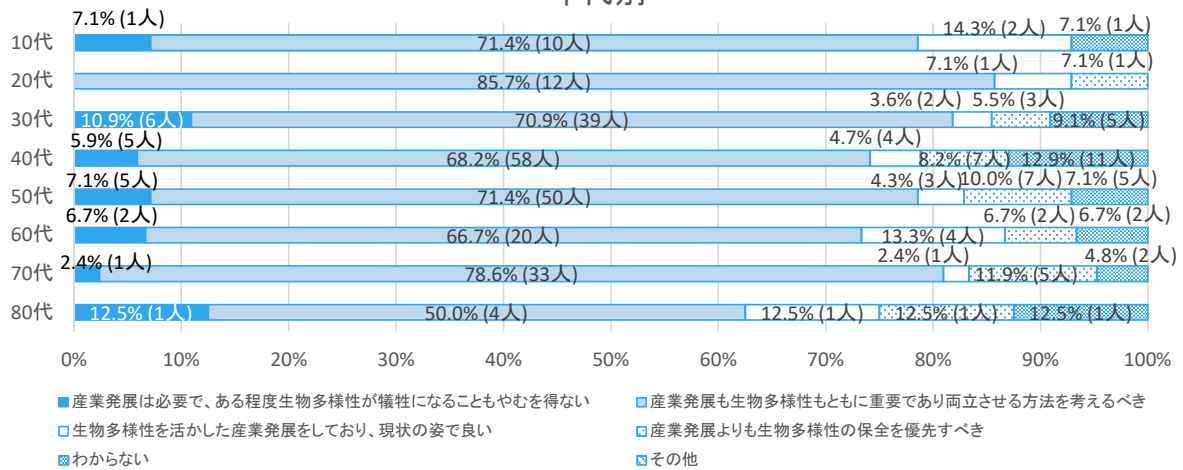
(回答者：318人)



性別



年代別



「産業発展も生物多様性もともに重要であり両立させる方法を考えるべき」との回答が全体の7割以上であった。
産業発展あるいは生物多様性どちらかのみを重視するということではなく、どちらも両立を考えるべきと思う方が多数であった。

問9 普段の生活の中で、お住まいの地域に限らず、以前に比べて(幼少の頃と比べて)見かけなくなったと思う動植物について、「名称(略称)、場所」をお答えください。
(自由記述・複数可) (回答者：199人)

種類別

種類別(広義)	回答数	割合	主なもの
昆虫等	153	76.9%	トンボ(31)、ホタル(29)、イナゴ(18)、セミ(18)
鳥類	73	36.7%	カッコウ(20)、スズメ(15)、キジ(10)、ツバメ(6)
魚類	34	17.1%	メダカ(9)、ドジョウ(8)
植物類	34	17.1%	ススキ(6)、シロツメクサ(3)
両生類	25	12.6%	カエル(21)、(オタマジャクシ(3))
哺乳類	14	7.0%	コウモリ(5)、タヌキ(2)
爬虫類	12	6.0%	ヘビ(11)
甲殻類	11	5.5%	ザリガニ(10)
貝類	3	1.5%	タニシ(2)

個別

数	割合	種類	主な地区	数	割合	種類
31	15.6%	トンボ	市内全域・安積町	8	4.0%	チョウ、ドジョウ
29	14.6%	ホタル	市内全域・田村町	7	3.5%	カブトムシ
21	10.6%	カエル	市内全域・安積町	6	3.0%	ススキ、ツバメ
20	10.1%	カッコウ	富田町・安積町	5	2.5%	川魚、コウモリ
18	9.0%	イナゴ	市内全域	4	2.0%	ハクチョウ、ハト
18	9.0%	セミ	安積町・大槻町	3	1.5%	アゲハチョウ、アメンボ、ウグイス、オタマジャクシ、クワガタ、ゲンゴロウ、シロツメクサ、バッタ、フナ、虫
15	7.5%	スズメ	市内全域	2	1.0%	オニヤンマ、カマキリ、カミキリムシ、クローバー、小魚、タニシ、タヌキ、タンポポ、ツクシ、トノサマバッタ、ナマズ、野良犬、レンゲ、鳥
11	5.5%	ヘビ	安積町	1	0.5%	アカゲラ、アリシゴク、イタチ、イタドリ、イチヂク、オイカワ、オオイヌフグリ、オナモミ、柿、カジカ、カタツムリ、カナヘビ、カモ、カラス、カワセミ、キツツキ、キツネ、キノコ、クイナ、栗、クワアゲハ、コオロギ、サワガニ、シオカラトンボ、シジュウカラ、シラサギ、セイタカアワダチソウ、セリ、タガメ、どんぐり、ニッコウキスゲ、ニホンタンポポ、ネズミ、野良猫、春蘭、ヒキガエル、フクロウ、ミツバチ、ムクドリ、ムササビ、モズ、野鳥、ヤマツツジ、ヨモギ、ワレモコウ、住宅地内の植物
10	5.0%	アカトンボ	大槻町			
10	5.0%	キジ	喜久田町			
10	5.0%	ザリガニ	市内全域			
9	4.5%	メダカ	市内全域			

種類別では、昆虫等が76.9%、鳥類が36.7%であった。個別の種類別では、「トンボ」が15.6%であり、「トンボ」、「アカトンボ」、「オニヤンマ」及び「シオカラトンボ」を加えると22.1%と最も多かった。
生活の中で身近な存在である「昆虫類」「鳥類」について、減少したことが市民にとって分かりやすいことが読み取れる。

問10 普段の生活の中で、お住まいの地域に限らず、以前に比べて(幼少の頃と比べて)増えた、見かけるようになったと思う動植物について、「名称(略称)、場所」をお答えください。(自由記述・複数可)

(回答者：174人)

種類別

種類別(広義)	回答数	割合	主なもの
鳥類	62	35.6%	カラス(37)、ムクドリ(9)
植物類	54	31.0%	セイタカアワダチソウ(23)、ブタクサ(6)
哺乳類	43	24.7%	ハクビシン(10)、イノシシ(9)
昆虫等	39	22.4%	カメムシ(16)、ハチ(4)
両生類	4	2.3%	ウシガエル(2)
爬虫類	4	2.3%	ヘビ(3)
甲殻類	4	2.3%	ザリガニ(3)
魚類	2	1.1%	ブラックバス(1)
貝類	1	0.6%	ナメクジ(1)

個別

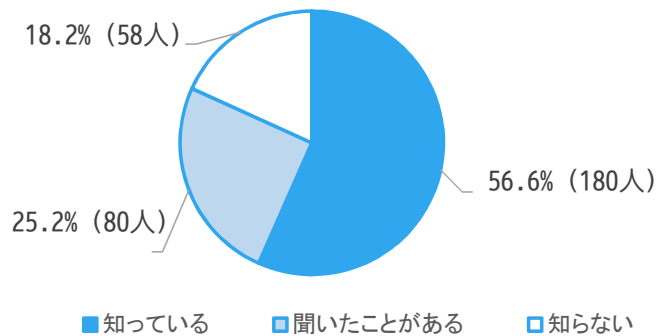
数	割合	種類	主な地域	数	割合	種類
37	21.3%	カラス	市内全域・旧市内・駅周辺・安積町・大槻町	4	2.3%	セイヨウタンポポ、タヌキ、ハチ
23	13.2%	セイタカアワダチソウ	市内全域・安積町	3	1.7%	コウモリ、ナガミヒナゲシ、ネコ、ヘビ、ザリガニ
16	9.2%	カメムシ	市内全域・安積町・大槻町・富久山町・熱海町	2	1.1%	ウシガエル、カッコウ、カワウ、クマ、クモ、ゴキブリ、雑草、スズメバチ、タカサゴユリ、ツマグロヒョウモン、ヒヨドリ
10	5.7%	ハクビシン	市内全域	1	0.6%	アゲハチョウ、アマガエル、アメリカシロヒトリ、アメリカセンダングサ、アメリカミンク、アライグマ、アレチウリ(場所未回答)、イタチ、イナゴ、ウグイス、ウミウ(場所未回答)、蚊、飼い犬、外来淡水魚、カエル、カマキリ、カメ、カワセミ、キツネ、クズ、熊、クマバチ、ケムシ、ゴマダラカミキリ、サギ、シカ、シラサギ、シロアリ、スジエビ、スズムシ、スズメ、ツバメ、テッポウユリ、ドブネズミ、鳥、トンボ、ナメクジ、ニホンカモシカ(熱海町)、野良猫、ハクチョウ、ハト、羽虫、ビーマン、ヒトスジシマカ、ヒメオドリコソウ、フェレット、ブラックバス、ポビー、ミンク
9	5.2%	イノシシ	逢瀬町			
9	5.2%	ムクドリ	市内全域			
6	3.4%	ブタクサ	安積町			
5	2.9%	外来植物				

種類別では、鳥類が35.6%、植物類が31.0%であった。個別の種類別では、「カラス」が21.3%であり、最も多く、次いで外来植物である「セイタカアワダチソウ」が13.2%であった。

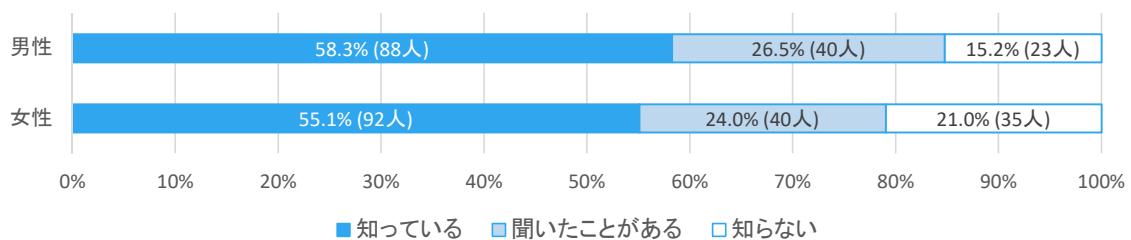
問9と比べると、「昆虫類」等の種類に属する様々な回答が集まるというよりも、「カラス」、「セイタカアワダチソウ」といった特定の生物種に対する回答が多かった。

問11 「外来種」(注3)は外国からの人為的な移動だけでなく、「国内」においての人為的な移動による生物種も含まれていることをご存知ですか？(1つ選択)

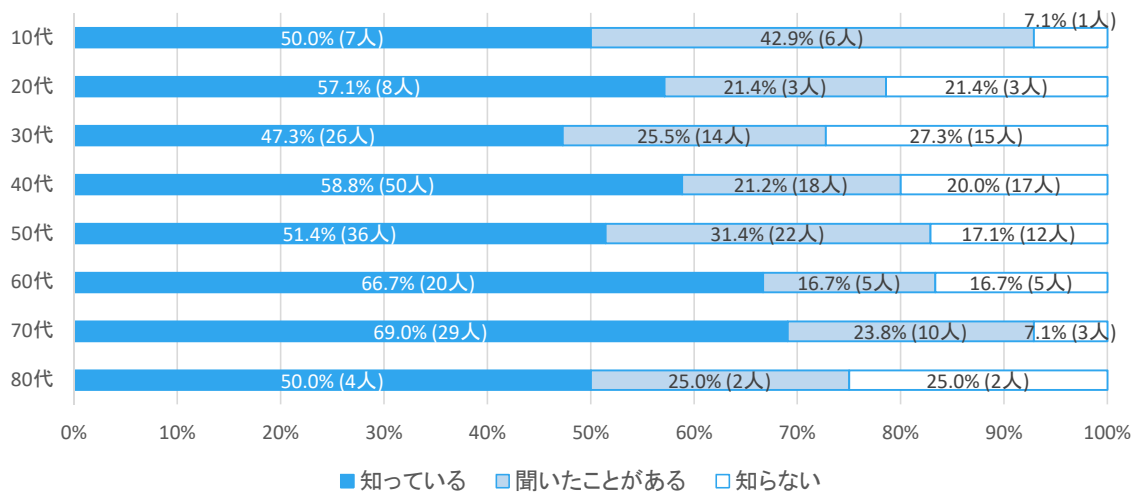
(回答者：318人)



性別



年代別



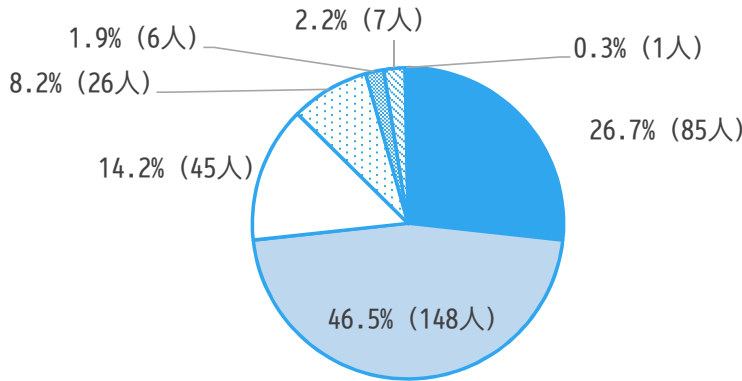
全体の56.6%が「知っている」、25.2%が「聞いたことがある」と回答し、両方で全体の8割を超えており、「国内由来の外来種」に対する関心は比較的高いことが読み取れる。

(注3) 【解説】「外来種」とは？

- 人為的な移動により、その生物本来の自然分布域外に生育・生息する生物種(国内外由来両方含む)。そのうち、様々な被害を及ぼす恐れのあるものが「侵略的外来種」、法律で指定された国外由来のものが「特定外来生物」である。
- 国内 ①外来種 (例、本土から琉球列島等へ移動されたニホンスッポン)
 ②侵略的外来種 (例、本土等から北海道等へ移動されたニホンイタチ)
- 国外 ③外来種 (例、アメリカザリガニ、ナガミヒナゲシ)
 ④侵略的外来種 (例、アカミミガメ、ニジマス)
 ⑤特定外来生物 (例、オオクチバス、アレチウリ)

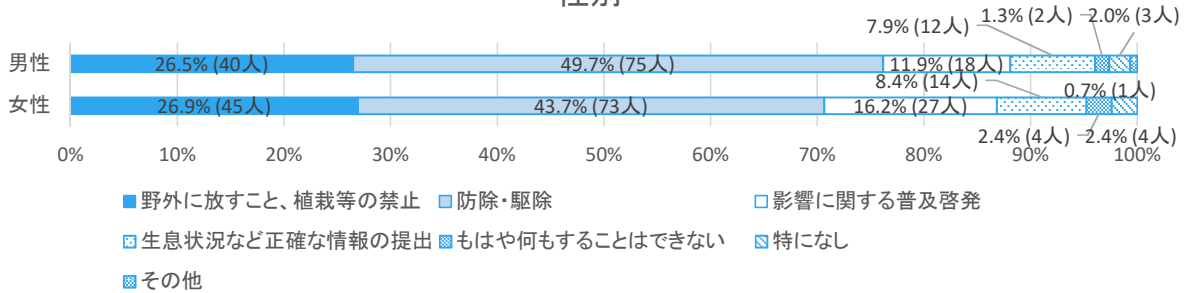
問12 外来種のうち、本来その地域で生息する野生動植物(在来種)の生存や生息を脅かすなど影響を与えるもの(オオクチバスやアレチウリなど)が問題となっています。そういった既存の生態系等に影響を与える外来種に対して、必要と思う取り組みは何ですか？(1つ選択)

(回答者：318人)

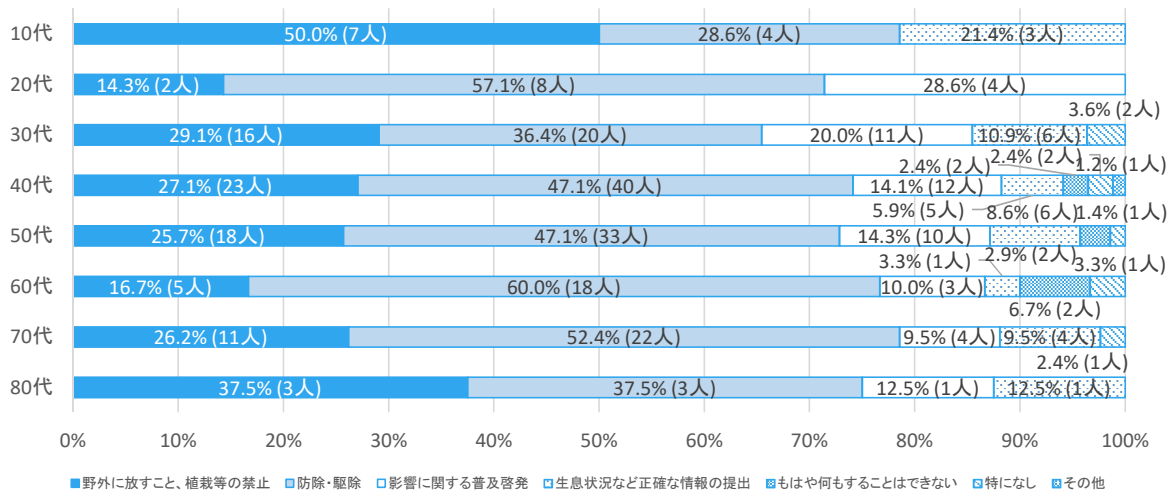


- 野外に放すこと、植栽等の禁止
- 防除・駆除
- 影響に関する普及啓発
- 生息状況など正確な情報の提出
- もはや何もすることはできない
- 特になし
- その他

性別



年代別

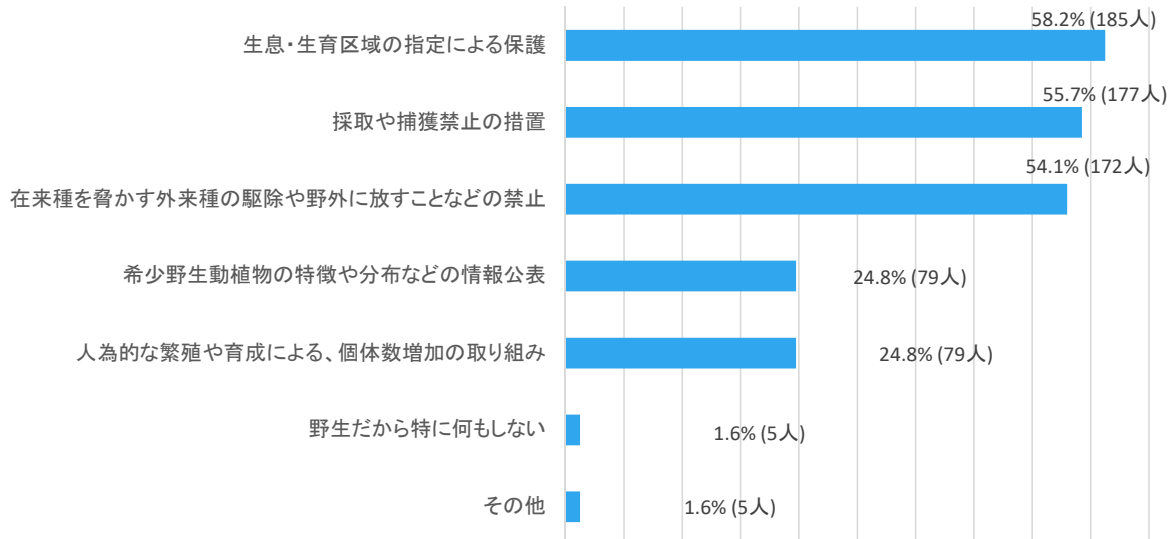


全体の46.5%が「防除・駆除」、26.7%が「野外に放すこと、植栽等の禁止」、14.2%が「影響に関する普及啓発」と回答し、外来種が定着しないようにする取り組みと、定着してしまった後の取り組み、それぞれ必要だと考えていることが読み取れる。

なお、「もはや何もすることはできない」が1.9%であり、外来種によっては郡山市内でも広く定着している現状においても、取り組みは必要だと考えられていることが読み取れる。

問13 野生動植物の中には、生息・生育する地域が限られ、個体数が少なく、絶滅のおそれがあるものがあります。そのような希少な野生動植物を保護するために、必要と思う取り組みは何ですか？
(3つまで選択可)

(回答者：318人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

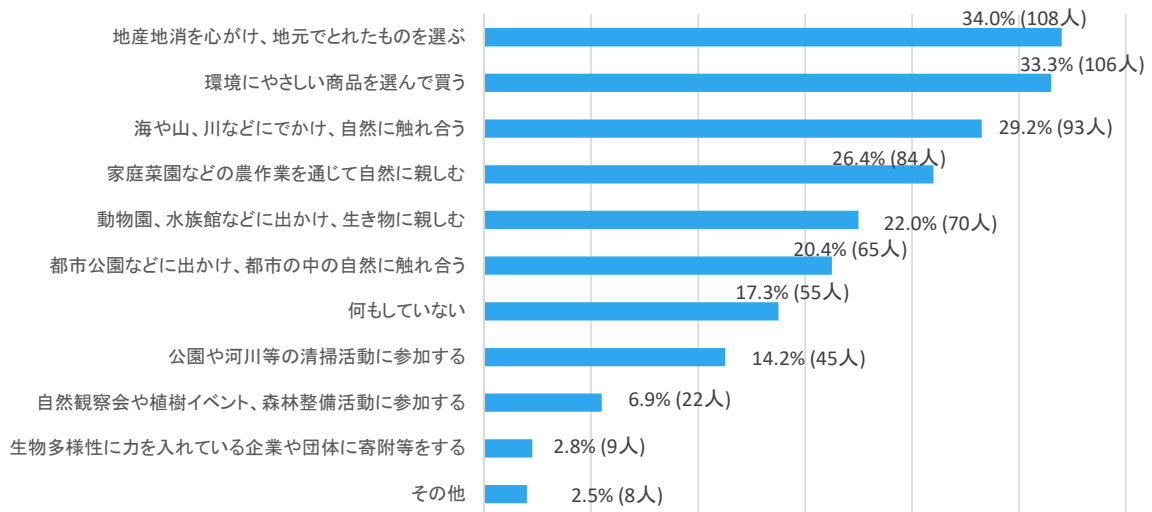
- ・周知啓蒙するのは現実的に難しいのでは。

「生息・生育区域の指定による保護」、「採取や捕獲禁止の措置」、「在来種を脅かす外来種の駆除や野外に放すことなどの禁止」に比較的多く回答があった。

問14 生物多様性の保全のために、あなたが日ごろから行っていることは何ですか？

(3つまで選択可)

(回答者：318人)



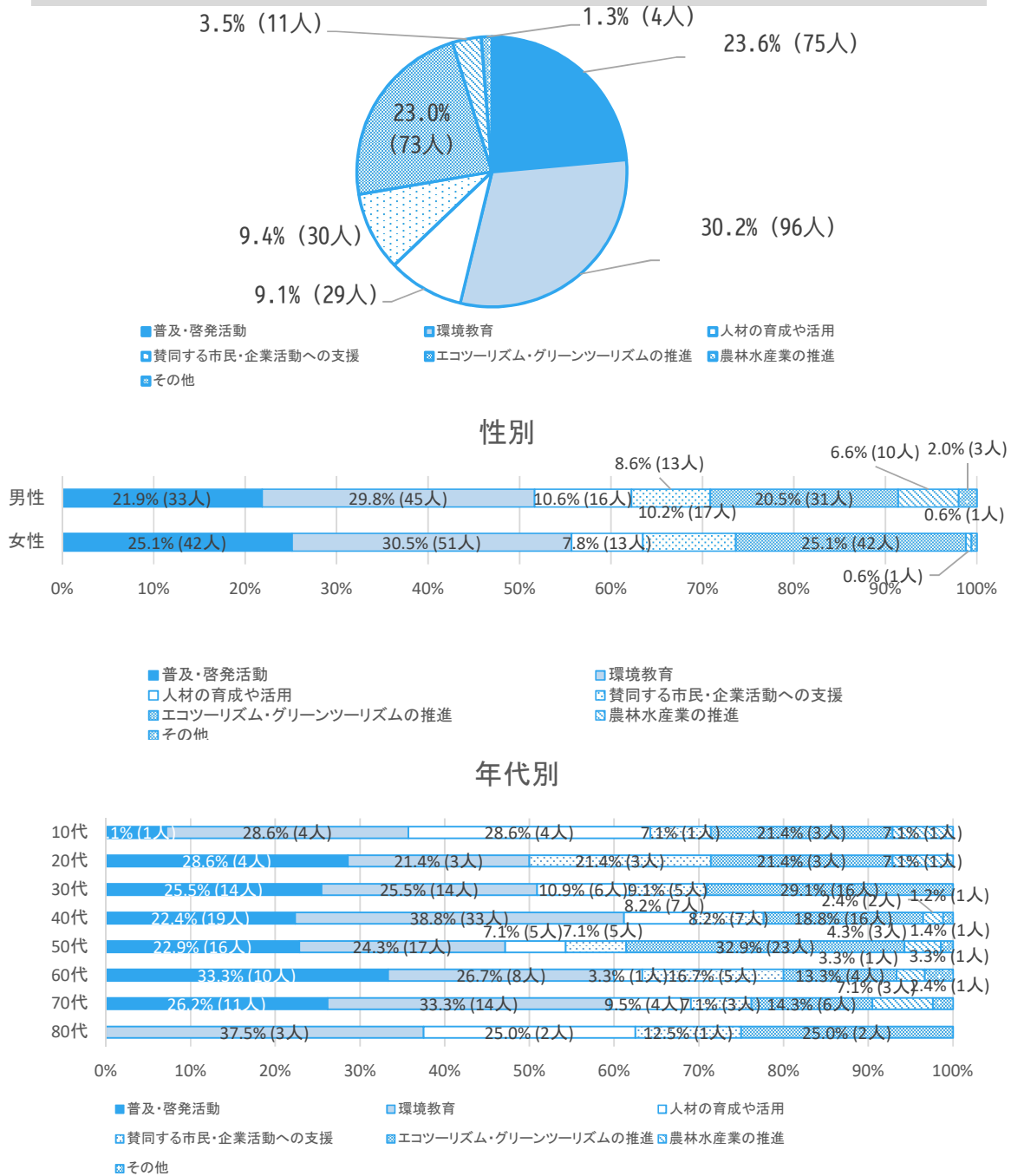
◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・自然を愛する生き方。
- ・生物多様性について書籍、インターネットで調べている。

「地産地消を心がけ、地元でとれたものを選ぶ」、「環境にやさしい商品を選んで買う」、「海や山、川などにでかけ、自然に触れ合う」といった回答が多かった。生活における消費、余暇など、身近なことから「持続可能な」取り組みを実践しているとの結果が読み取れる。

第3章 郡山市の生物多様性保全のための取り組みについて

問15 自然環境に対する市民の愛着や関心を高めるために、今後市が力を入れていくべきことは何だと思えますか？(1つ選択) (回答者：318人)



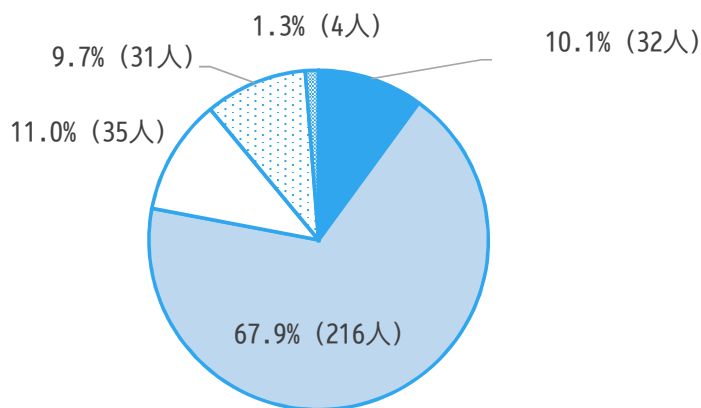
全体の30.2%が「環境教育」、23.6%が「普及・啓発活動」、23.0%が「エコツーリズム、グリーンツーリズムの推進」と回答した。

(注4) 【解説】エコツーリズム・グリーンツーリズムとは？

- ・エコツーリズム：地域固有の自然環境や歴史、文化などを対象にした観光により、自然環境の保全・保護を目指す取り組み
- ・グリーンツーリズム：緑豊かな農村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ休暇・余暇活動により、地域の活性化を目指す取り組み

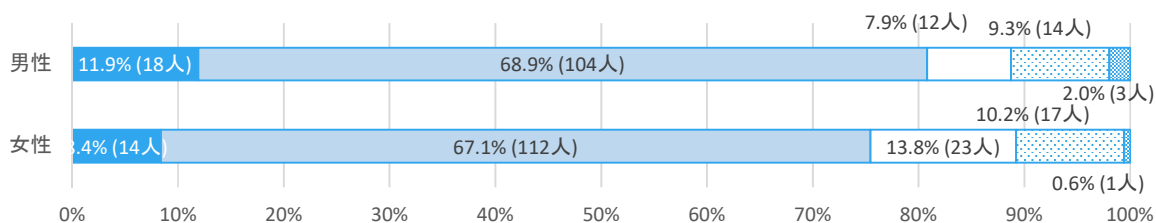
問16 市内各地で、様々な自然環境保全活動(自然観察、里山保全、植樹、希少な野生動植物の保護など)が行われていますが、これらの活動に参加したいと思いますか？(1つ選択)

(回答者：318人)



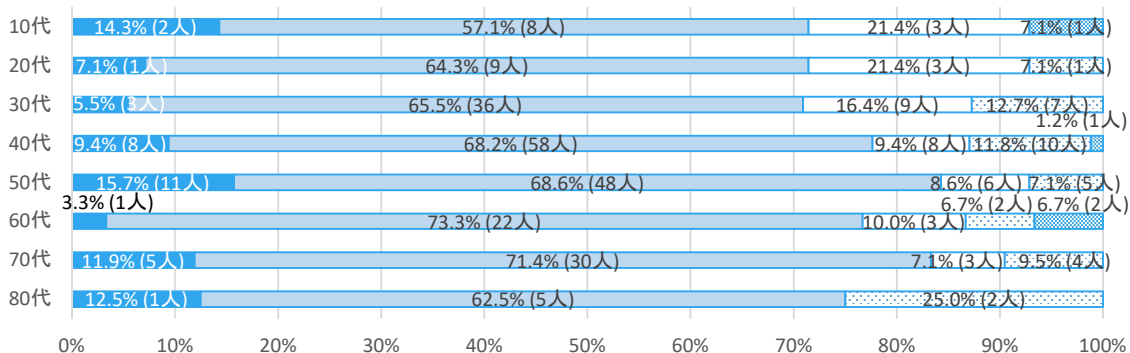
■ 参加したい ■ 趣旨に賛同できる内容であれば参加したい ■ 募金であれば応じたい ■ 参加したくない ■ その他

性別



■ 参加したい ■ 趣旨に賛同できる内容であれば参加したい ■ 募金であれば応じたい ■ 参加したくない ■ その他

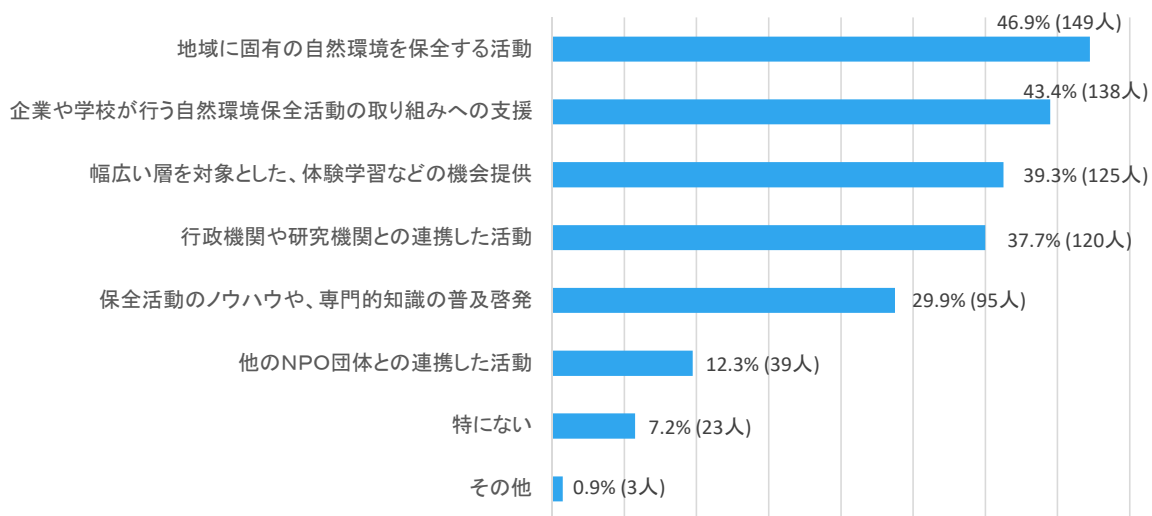
年代別



■ 参加したい ■ 趣旨に賛同できる内容であれば参加したい ■ 募金であれば応じたい ■ 参加したくない ■ その他

全体の67.9%が「趣旨に賛同できる内容であれば参加したい」、11.0%が「募金であれば応じたい」、10.1%が「参加したい」と、全体の8割以上が何らかの形で参加したいと回答した。

問17 生物多様性の保全のためには、それぞれの地域における多様な主体の連携も必要です。NPO法人等の民間団体にどのような役割を期待しますか？(3つまで選択可)
 (回答者：318人)

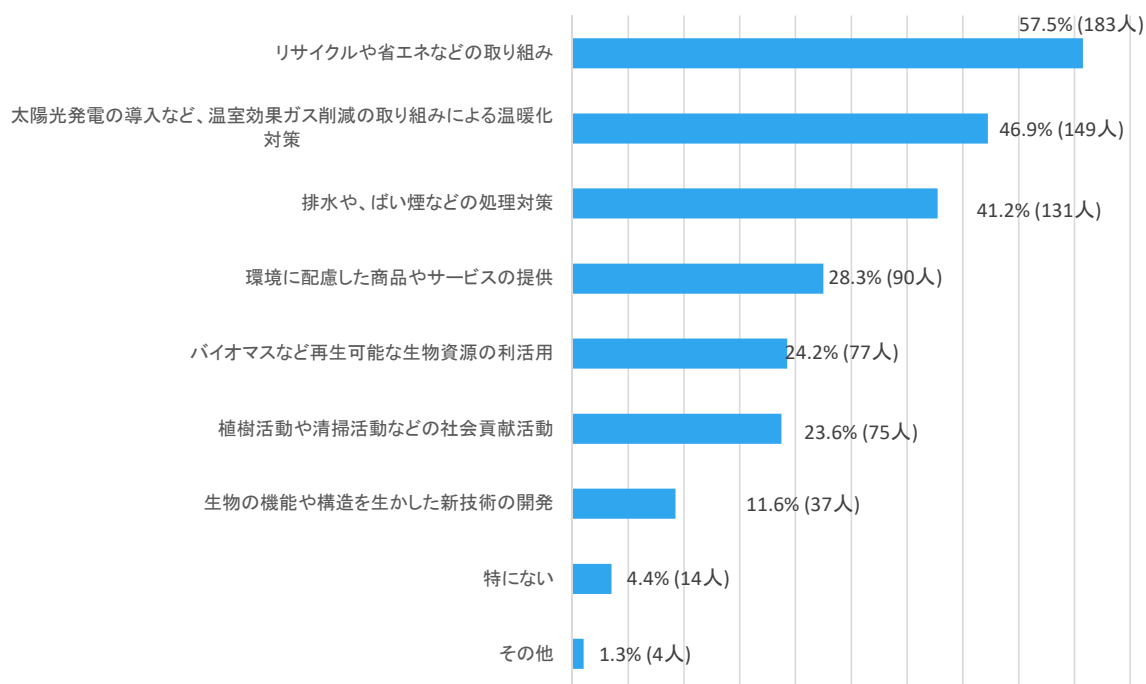


「地域に固有の自然環境を保全する活動」、「企業や学校が行う自然環境保全活動の取り組みへの支援」、「幅広い層を対象とした、体験学習などの機会提供」の順で回答が多かった。

「特にない」以外の回答が9割以上あり、NPO法人等の民間団体には幅広い役割への期待があることが読み取れる。

問18 生物多様性の保全のためには、社会経済活動を支える企業の役割も重要です。
企業にどのような役割を期待しますか？(3つまで選択可)

(回答者：318人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・森林伐採など新たな土地の開拓をしない

「リサイクルや省エネなどの取り組み」、「太陽光発電の導入など、温室効果ガス削減の取り組みによる温暖化対策」、「排水や、ばい煙などの処理対策」に多くの回答があった。生物多様性の保全についても、地球規模の環境問題である「地球温暖化対策」による生物多様性の保全に関心があることが読み取れる。

問19 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

■生物の生息環境の保全について

郡山に越して20年以上で沢山家が建ちだいが環境が変わった印象です。最近のお宅は庭もコンクリート敷きの所も増えてきました。各家庭に樹木を1、2本植えるだけでも環境が変わるのではないかと考えております。また、太陽光発電で山林が無くなり、逆に環境に悪影響を与えているのでは？と心配です。(女性・60代)

自然環境とマッチした都市づくりに尽力をする。(女性・50代)

昔は田んぼに蛍を見ることができましたが、今は見たことがありません。子どもたちが初めて蛍を見たのは水族館でした。郡山でも蛍が見れる環境が整うと嬉しいです。(女性・40代)

今年は熊やイノシシなどが今年は生活圏に多く出現しているので、里山に実のなる樹木を植える活動をしてはいかがでしょうか？林業のなり手育成する。企業がパッケージを環境に配慮する。お惣菜や弁当の容器を簡素化する。企業のごみは資源ごみを分別義務化する。
(女性・30代)

放置による里山などの自然破壊には危惧します。自然が放置されていることで外来種がはびこり、在来種がなくなっていくのは残念です。(男性・70代)

自然は大事ですが、豊田浄水場跡地を公園にするのは反対。すぐ隣に開成山や近隣に既に多数の公園がつくられています。文教エリアとして人気なため、音楽ホールをつくるなど文化的な利用の方が好ましい。(女性・40代)

河川の整備も必要ですが、もっと親しめる(釣りや散歩、ピクニックなど)河川敷にしてほしい。(男性・40代)

■環境教育について

温暖化などの影響も出てきていますので、子どもたちも自然に親しむ機会を増やさなければならぬと思います。(女性・40代)

自然あふれる郡山を次世代につないでいくために、子どもの頃から自然環境について教育していくことが大切だと思います。(女性・40代)

子どもたちへの自然環境教育の充実で、大人も巻きこむような活動を第一に。(男性・40代)

自然を守るための取り組みを意識して、生活していきたいと思います。また、子どもたちにも伝えていきたいです。(女性・40代)

昔に比べて動物や昆虫が少なくなっていると感じているので、未来を背負う子どもたちには、触れ合う機会をもっとつくるべきではと思います。(女性・10代)

郡山市が自然環境、生物多様性について、取り組んでいることを知らなかった。具体的にどの様な活動をしているのか、知りたいと思った。旧市内の公園は主に池など整備されすぎて、生物多様性とは真逆の人工池になってしまい、子どもの頃の自然環境が失われ、とても残念に感じていた。水道局跡地の整備計画についても、生物多様性について考えてほしいと思う。

(男性・60代)

■啓発活動について

即、効果の出る問題ではないと思うので長い考えで対処していただきたい。（男性・70代）

行政からのPR活動をもっと活発にしてください。（男性・70代）

テーマが大きく一人ではできないことばかり。若い人たちを巻き込んで啓発活動から実施していければよいと思う。（男性・70代）

環境政策課が担当ならもっと指導力を持って、目に見える施策を周知させ、市民を牽引してもらいたい。（男性・60代）

もし今回の議題でこつこつと協力または活動してる団体あれば表彰してあげればよいと思われれます。（女性・20代）

最近登山を始め、今年初めて裏磐梯でカヌーを漕ぎました。それを機会に自然保護を強く意識するようになりました。自然の美しさを知るのも自然保護の第一歩になると思います。（男性・30代）

地域公民館の活動として、いろいろな研修事業を推進してほしい。又、そうした活動の中から市民の声を聞いてほしい。（女性・60代）

前にも書いたことがあるのですが、太陽光発電って、どうなんでしょう？、山肌にびっしり木を切り倒して太陽光パネル。生物多様性の保護については、知らない人が多いのではないのでしょうか？、私だけが疎かったのかな？学校とか、町内会でも、啓蒙活動が必要なのではないのでしょうか、。。（女性・40代）

生き物、外来種などについて学べる機会があったら参加したい（男性・10代）

■環境のイベントについて

例えば 夏にはたぶん皆さん懐かしい、螢を見る会などを開催して環境保全の重要性を啓発してはどうでしょうか。（男性・30代）

環境汚染は深刻だと思うが、自分一人では限界がある。一人一人の意識の向上を。そのためにもっと注意をひくイベント、告知、等を。（男性・70代）

環境保護活動は大切だと思うが、生活や時間に余裕が無ければ具体的な取り組みができない。また、その思想がある人と無い人が分かれる。里山の保護についても、市中心部への人口の集中、農業人口の減少があるので、生活から切り離されていると思います。かと言って、里山保護のために血税を割くのもコスト面で課題が多いと思います。キャンプや農家体験はブームではあるので、休耕地の活用等を通して、若い世代が田舎地域に足を運ぶきっかけが有るとよいと思います。（女性・40代）

外来種の増加に関わらず、ここ最近は特に都市開発や気候変動により動植物の生息域が急激に変化しているように感じます。動植物の保護はもちろんですが、小さい子どもたちが動植物に触れ合い、楽しいと感じる機会をつくることで未来の環境保護にも繋がると思います。郡山市には自然豊かな公園が複数ありますが、手入れが行き届いておらず市中心部の公園でも外来種のスズメバチを見かけることが増えてきました。そうすると市民の足は遠のいてしまいますし大きな事故が起こりかねません。何事もスピーディな対応が必要だと感じます。（女性・40代）

■外来種について

生態系、外来生物に焦点を当て意見を述べたいと思います。日本は島国のせいか、あまり外来生物の侵入によって生態系が壊される可能性があることに対して関心を持っている人が少ないように感じます。実際、アフリカや中東で起きたバッタの大量発生のように、最悪の場合人間の生活に深刻な影響を及ぼします。それらの国々は、バッタが人間や家畜の食料を食べてしまったことで食糧難になりました。生態系が壊れれば、人間の生活にも影響がでくる可能性があります。深刻な状況にならないためにも、このまま放置してはいけないので、今すぐにでも取り組むべきだと私は考えています。企業や学校等で、生態系の教育を促す、テレビやチラシで生態系の危機を告発する、などの対策が必要だと考えています。一人一人の意識が変わり、生態系を守る責任を持てるようになれば、豊かで住みやすい地域をつくれるようになるのではないのでしょうか。（男性・10代）

福島県の道路でも外来種の植物が目立つようになりました。外来種と知らずに「キレイだね」と会話している残念な親子を見かけました。外来種や自然に及ぼす影響を教育の場などで、さらに周知していくことが必要だと思います。（男性・50代）

■その他

猪苗代湖や公園・道路脇歩道など町内会ボランティア活動で毎日、草刈・除草・落葉・ごみ回収清掃しています。（男性・40代）

多様とはいろいろあることなので、多様性をよいことと前提条件にしてしまうと、問いが無意味なものになってしまう。（男性・30代）

自然環境や生物多様性のアンケート集計後、速やかにその目標にそる活動推進を望みます。（女性・50代）

自然は心も癒されるし、無くしてはならない大切なものだと思います。今後も更に意識して、環境に優しい品物を購入したいと思います！（男性・30代）

結局、一人一人の努力だと思うし公共事業と称して環境破壊をされていて責任を市民に転嫁してないか？の見直しだと思う。（男性・40代）

人が将来にわたって生きていくために必要な環境保全に力を注いでほしい。（女性・30代）

農業経営の効率化のため農薬や除草剤の使用が多い。その為自然環境破壊が進んでいると思う。住民が環境変化に興味がなく気づかない。そしてあきらめている人が多い。（男性・50代）

動植物の消滅危機が見られるようになっていきます。生物が活動できる環境を維持することが大事だと思います。開発や経済活動と環境保護が両立、連携できるような施策を今後は考慮する必要があるといえます。開発と環境保護の両立のためには人間と動植物の間の適度な距離が必要です。計画区域と調整区域の厳格な線引きが求められます。中心地域においても屋上緑化や歩道の公園化等で人間と環境の共存が可能かと思えます。共存することにより、健康的な都市生活につながると思えます。（男性・50代）

植物多様性のための、企業の参入、NPO法人の利用は、特定の団体への税金投入であり、効果が期待できない。むしろ、市として直接駆除する人材を確保し、即実践していくべき。（女性・80代）

経済第一主義を反省すること。（男性・70代）

市町村では水防法の規定に基づき、国・県が公表した洪水浸水想定区域図に洪水予報の伝達方法、避難場所その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載した「洪水ハザードマップ」を作成し、印刷物の配布やインターネット等により住民の方々に周知しています。

本市においても、令和2年4月に「郡山市洪水ハザードマップ」を改訂し周知しているところですが、市民の皆さまの洪水ハザードマップにおける認知度について調査を行うため、アンケートを実施しましたので、その結果をお知らせいたします。

(河川課)

調査概要

- 調査期間 令和2年11月18日(水)～11月27日(金) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 314名 (男性 152名 女性 162名)
- 回答率 87.2%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	6	5	15	29	32	17	40	8	152
女性	7	9	38	53	38	14	2	1	162
合計	13	14	53	82	70	31	42	9	314

《ハザードマップについて》

- ・郡山市洪水ハザードマップについて95.5%が「知っている」、4.5%が「知らない」と回答。認知度はとても高いと言える。
- ・わかりやすさについて、64.5%が「わかりやすかった」、6.1%が「わかりにくかった」、29.4%が「どちらともいえない」と回答

《洪水ハザードマップの内容について》

- ・浸水想定区域が拡大されたことについて、41.1%が「知っている」もしくは「ある程度知っている」と回答
- ・防災関係情報の掲載について、52.2%が「知っていて確認もした」もしくは「知っているが確認したことはない」と回答
- ・早期立退き避難が必要な区域の設定について、31.5%が「知っていて確認もした」もしくは「知っているが確認したことはない」と回答
- ・令和元年東日本台風(台風19号)の浸水実績の表示について、52.2%が「知っていて確認もした」もしくは「知っているが確認したことはない」と回答

《避難等について》

- ・垂直避難に特化した避難場所の追加について、27.4%が「知っている」もしくは「ある程度知っている」と回答

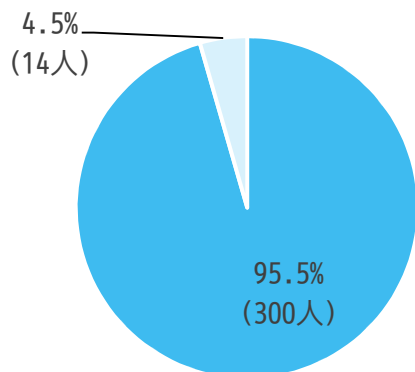
【考察】

- ・郡山市洪水ハザードマップは令和2年6月に全戸配布を行ったため、市民の認知度はとても高い。しかし、実際にハザードマップの内容について確認されている方の割合は少ない。特に年代が若くなるにつれてハザードマップの内容について認知度は低い傾向にある。このことから、10代から20代の若い世代を対象に周知・啓発を行っていく必要がある。

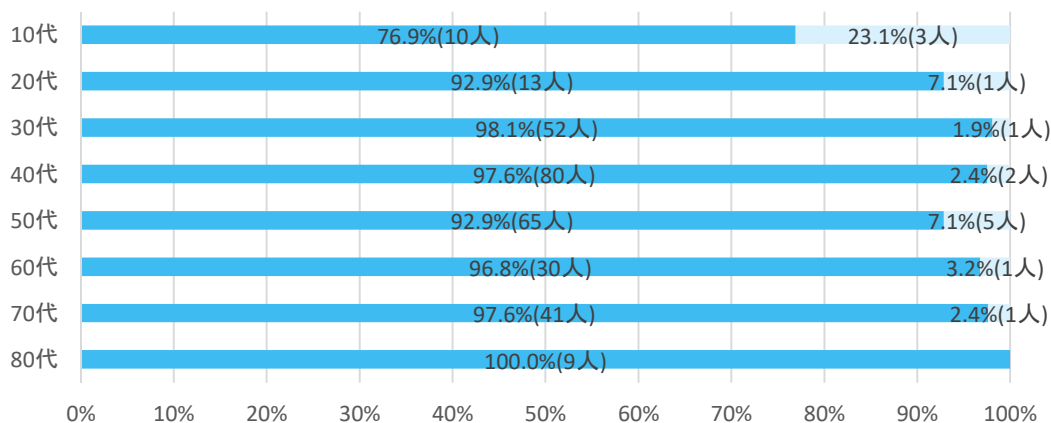
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 ハザードマップについて

問1 郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）をご存知ですか？（1つ選択）
（回答者：314人）

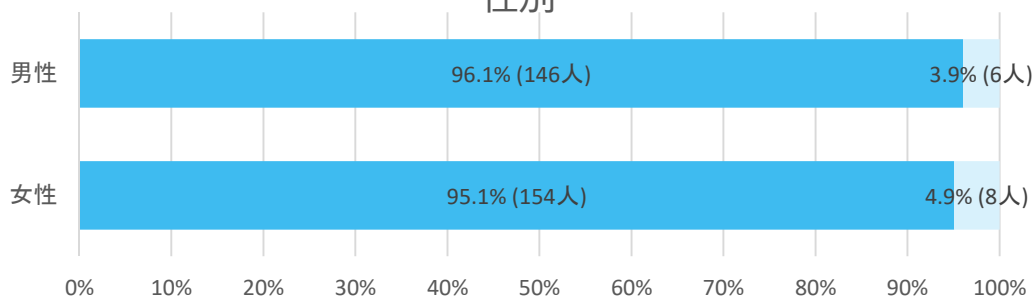


■ 知っている ■ 知らない
年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別

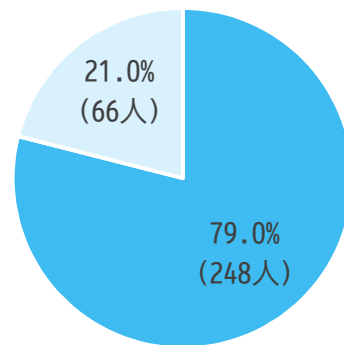


■ 知っている ■ 知らない

全体の95.5%が「知っている」と回答。年代別では10代を除いたすべての世代において9割を超えていることから、郡山市洪水ハザードマップの認知度はとても高い。なお、10代においても76.9%と8割近くが認知している。

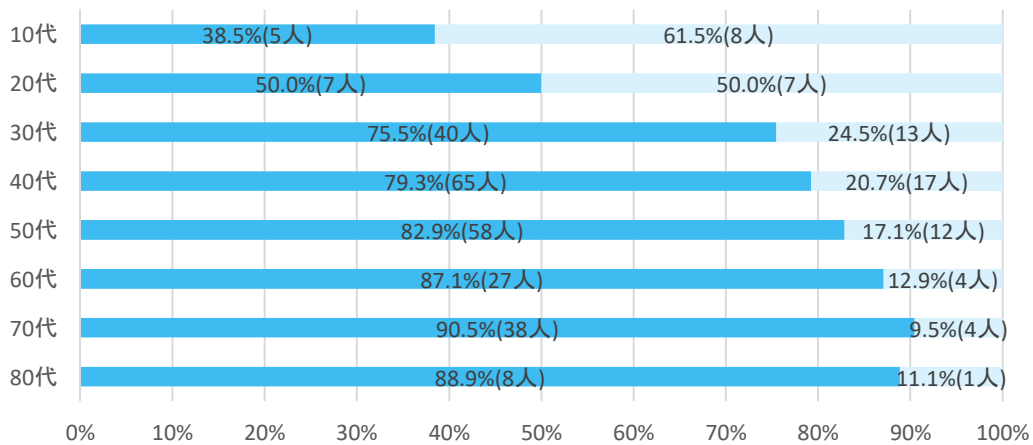
問2 令和2年4月に洪水ハザードマップが改訂され、全戸配布されたことをご存知ですか？
(1つ選択)

(回答者：314人)



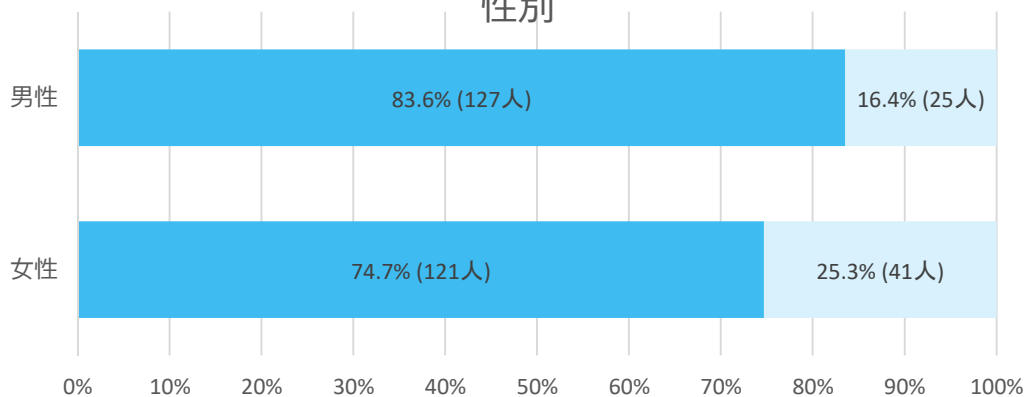
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別

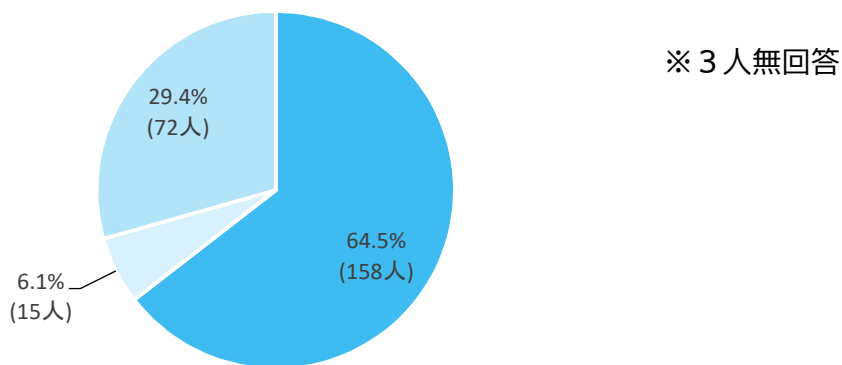


■ 知っている ■ 知らない

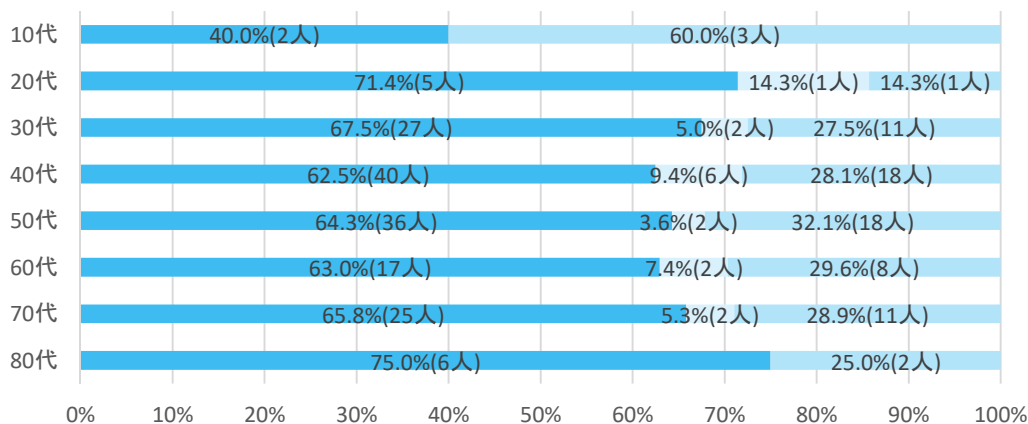
全体の79.0%の人が「知っている」と回答。
年代別では30代以上から7割を超えており、年代が上がるにつれて認知度も高い傾向にある。
男女別では男性が83.6%、女性が74.7%であった。

問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。今回改訂された洪水ハザードマップは、わかりやすかったですか？（1つ選択）

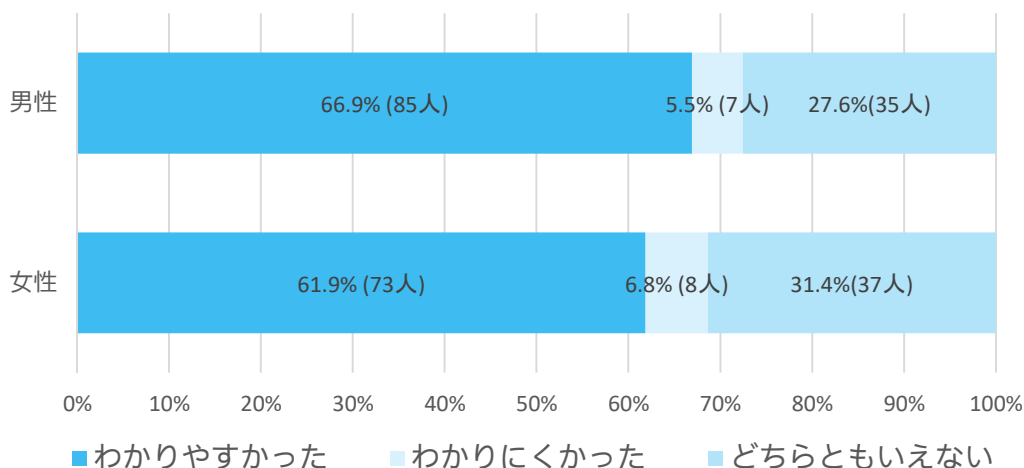
（回答者：248人）



■ わかりやすかった ■ わかりにくかった ■ どちらともいえない
年代別



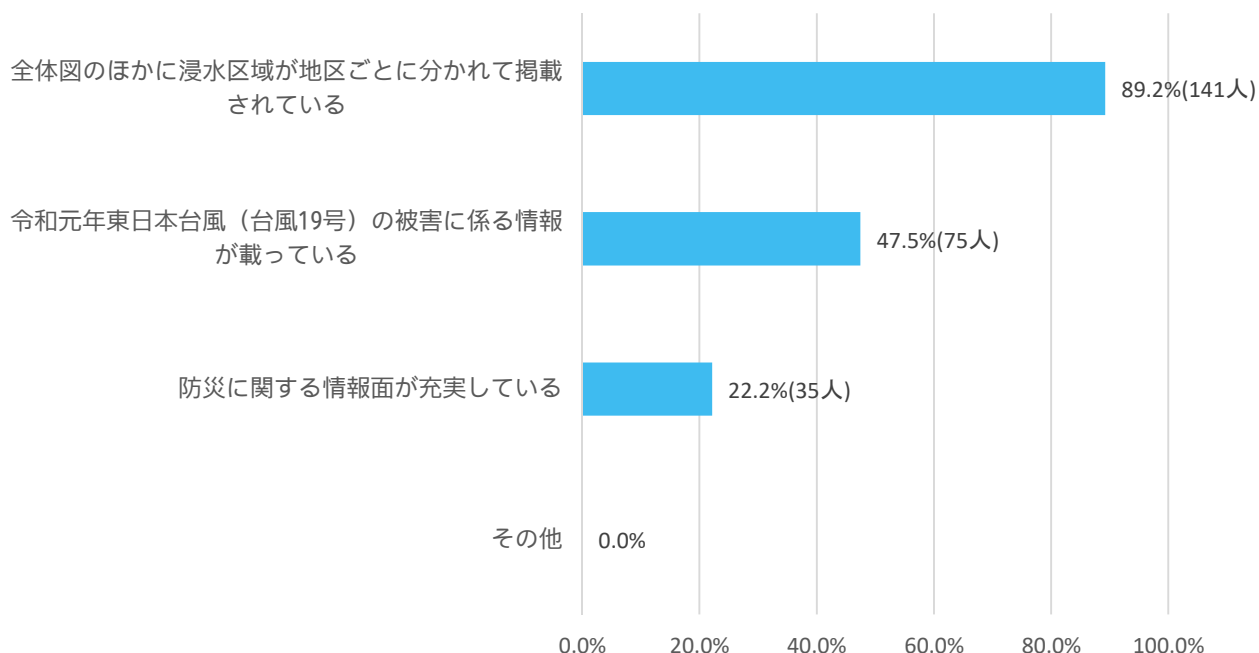
■ わかりやすかった ■ わかりにくかった ■ どちらともいえない
性別



全体の64.5%の人が「わかりやすかった」と回答。
 年代別では20代から80代において約6割から7割が「わかりやすかった」と回答しているが、10代が4割と低かった。
 10代においては出前講座等によりハザードマップの使い方について周知・啓発する必要があると考える。

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

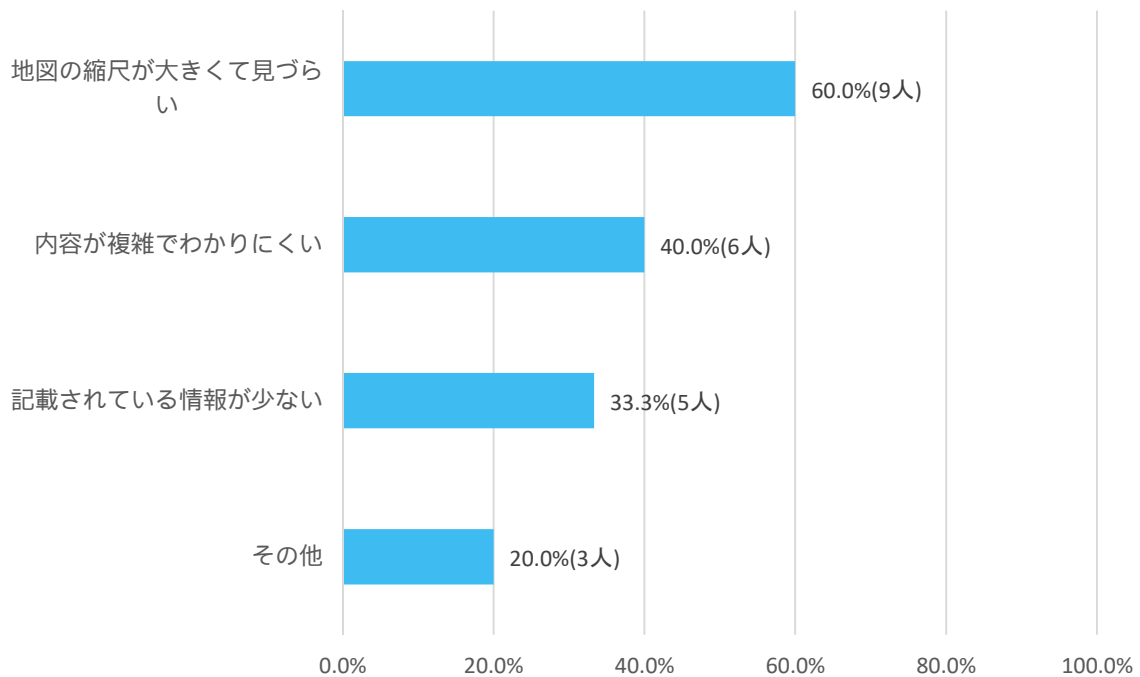
問4 問3で「わかりやすかった」を選択した方にお伺いします。わかりやすかった点はどこですか？（複数選択可） （回答者：158人）



問3で「わかりやすかった」と回答している理由として、「全体図のほかに浸水区域が地区ごとに分かれて掲載されている」が89.2%と最も高く、次いで「令和元年東日本台風（台風19号）の被害に係る情報が載っている」の47.5%であった。

問5 問3で「わかりにくかった」を選択した方にお伺いします。わかりにくかった点はどこですか？（複数選択可）

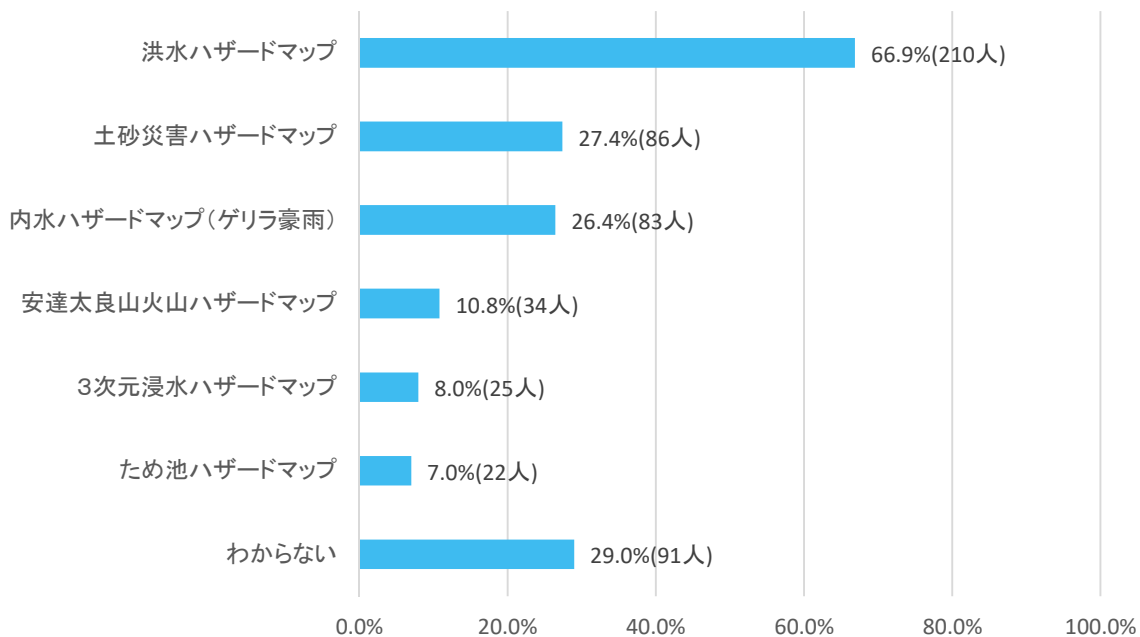
(回答者：15人)



問3で「わかりにくかった」と回答している理由として、「地図の縮尺が大きくて見づらい」が60.0%と最も高く、次いで「内容が複雑でわかりにくい」の40.0%であった。今後、改訂の際には、地図の縮尺や内容について再度検討する必要がある。

問6 郡山市では地震や風水害（洪水や土砂災害）に関するハザードマップをウェブサイトで公開しています。ご存知のものをすべて選択してください。（複数選択可）

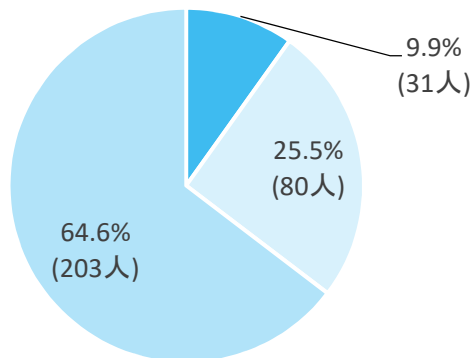
（回答者：314人）



郡山市がウェブサイトで開催しているハザードマップとして、「洪水ハザードマップ」が66.9%と最も高く、次いで「土砂災害ハザードマップ」が27.4%であった。
このことから、ウェブサイトにおける郡山市洪水ハザードマップの認知度は高いと言える。

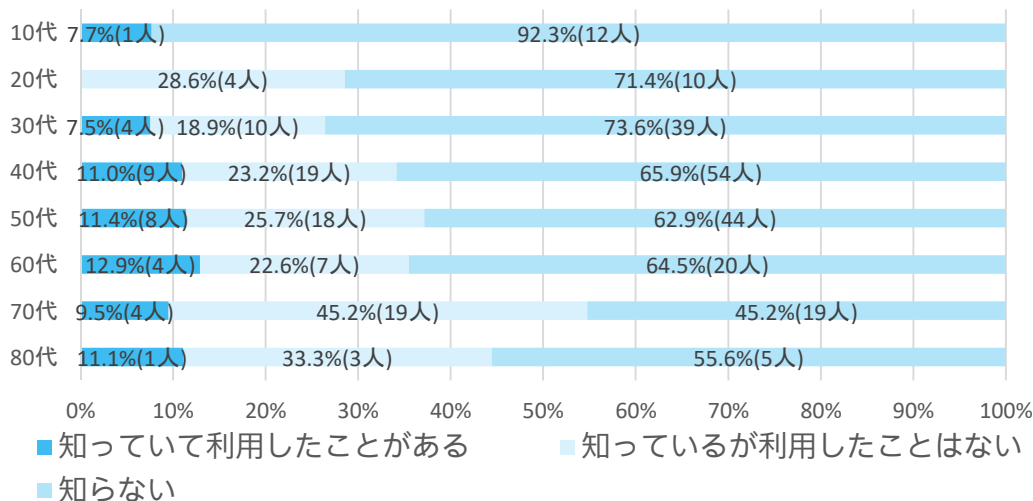
問7 インターネットで郡山市の施設マップ、防災マップ、公園マップ航空写真などを見ることができるサービス「郡山市地理情報システム」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：314人）

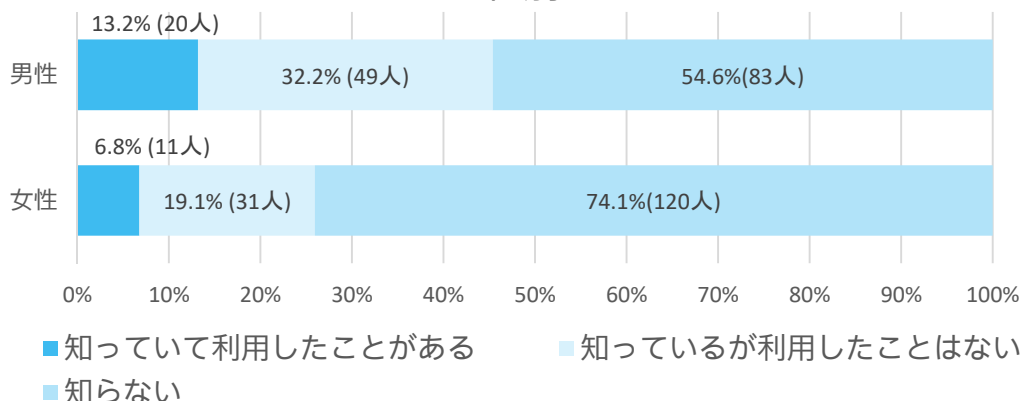


- 知っているが利用したことがある
- 知っているが利用したことはない
- 知らない

年代別



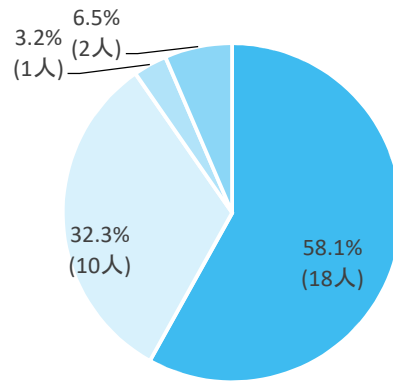
性別



全体の35.4%が「知っているが利用したことがある」もしくは「知っているが利用したことはない」と回答。
 年代別では70代が54.7%と最も高く、次いで80代が44.4%であった。
 男女別では男性が45.4%、女性が25.9%であった。

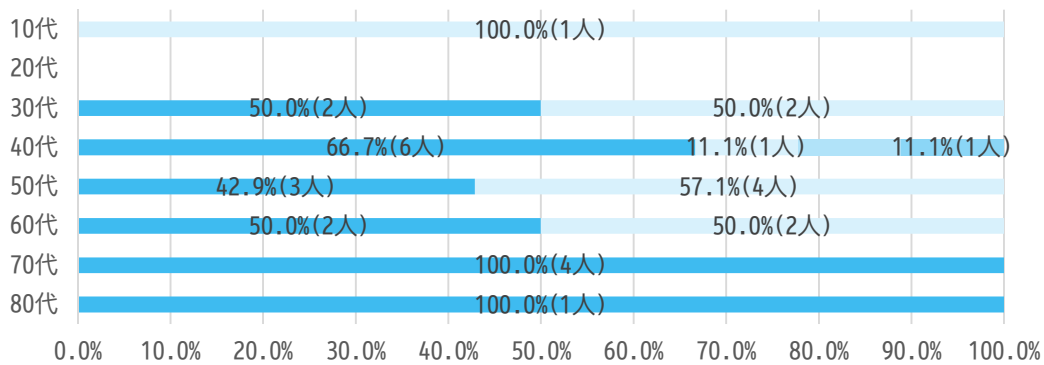
問8 問7で「知っている利用したことがある」を選択した方にお伺いします。
郡山市地理情報システムで洪水ハザードマップに表示されている「洪水浸水想定区域」
を確認できることをご存知ですか？（1つ選択）

(回答者：31人)



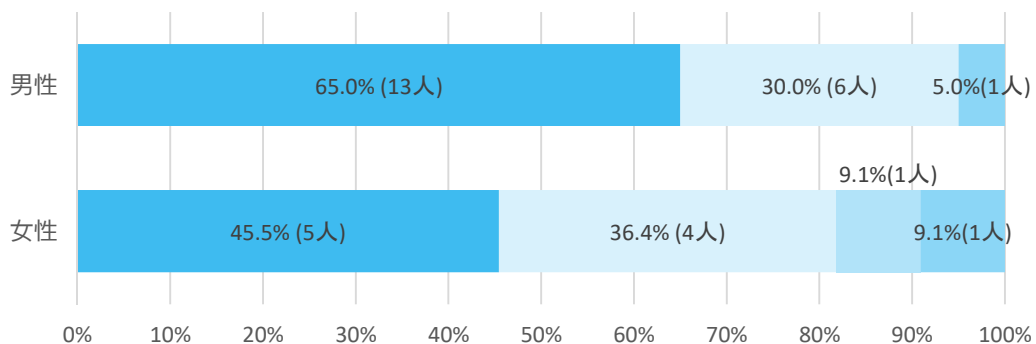
- 知っているが確認したことはない
- 知っているが使い方がわからない
- 知らない
- 知っているが確認したことはない

年代別



- 知っているが確認したことはない
- 知っているが使い方がわからない
- 知らない
- 知っているが確認したことはない

性別



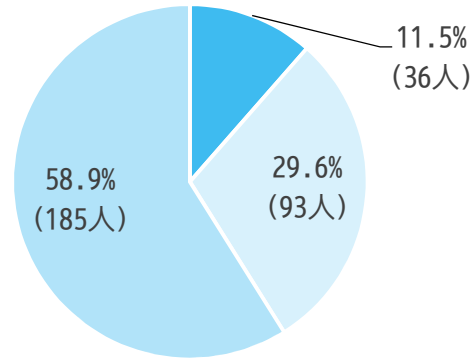
- 知っているが確認したことはない
- 知っているが使い方がわからない
- 知らない
- 知っているが確認したことはない

問7で「知っている利用したことがある」と回答した方で、「知っているが確認した」方は58.1%、「知っているが確認したことはない」方は32.3%だった。
現在、出前講座やハザードマップ配布の際は郡山市地理情報システムで確認できることを周知しているが、引続き行っていく必要がある。

第2章 洪水ハザードマップの内容について

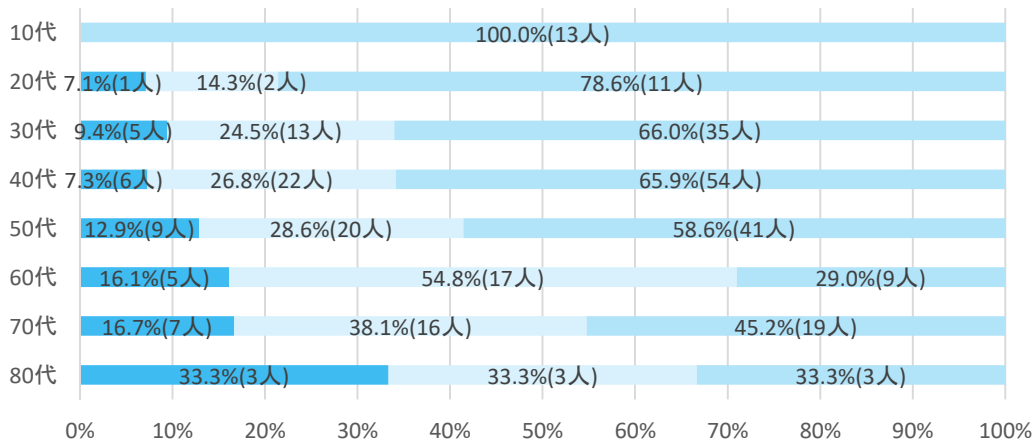
問9 平成27年の水防法改正に基づき、洪水浸水想定区域が見直されたことから、郡山市においても浸水想定範囲が拡大（約1.3倍）されたことをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：314人）



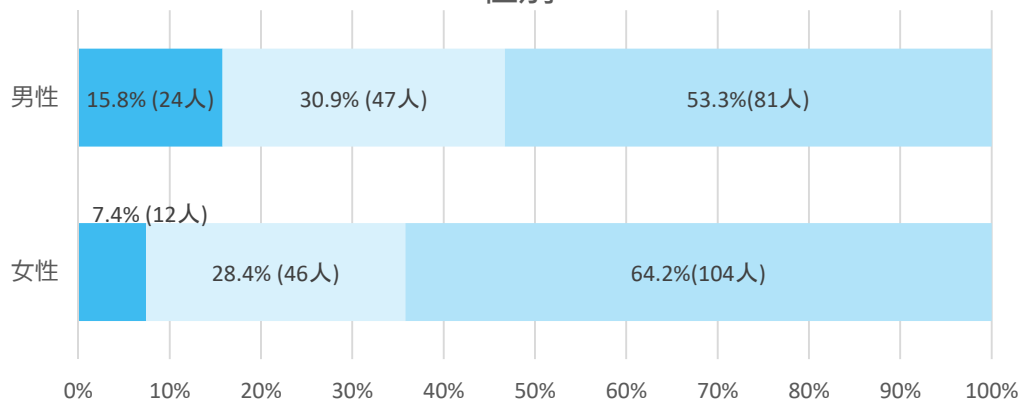
■ 知っている ■ ある程度知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ ある程度知っている ■ 知らない

性別

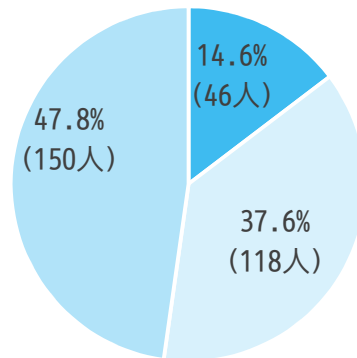


■ 知っている ■ ある程度知っている ■ 知らない

全体の41.1%が「知っている」もしくは「ある程度知っている」と回答。
年代別では、60代が70.9%と最も高く、次いで80代が66.6%であった。その一方で、10代においては0%と浸水想定範囲が拡大について認知されていなかった。

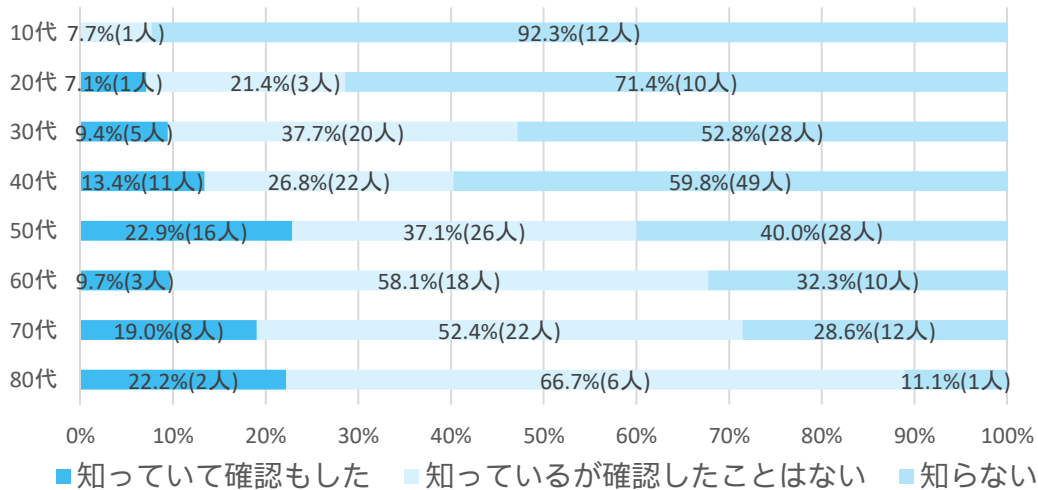
問10 洪水ハザードマップには、洪水浸水想定区域のほかに、「郡山市からの情報伝達とさまざまな情報の入手先」や「警戒レベルとみなさんがとるべき避難行動」、「国土交通省からの河川の水位状況と注意・警戒情報」についても掲載されていることをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：314人）



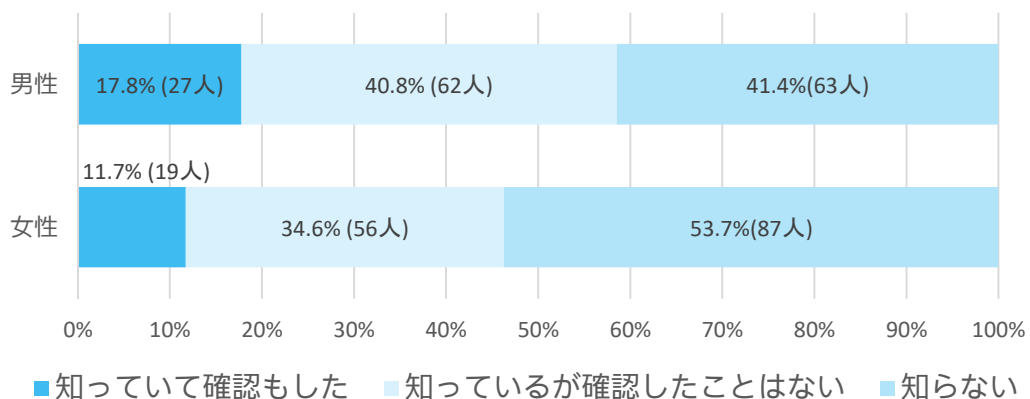
■ 知っている確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない

年代別



■ 知っている確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない

性別



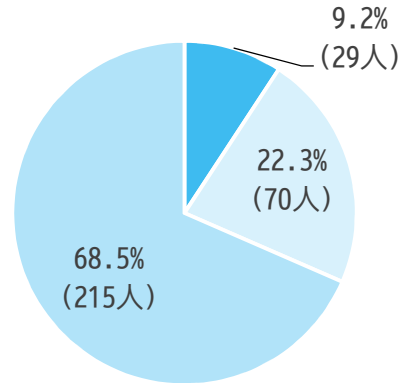
■ 知っている確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない

全体の52.2%が「知っている確認もした」もしくは「知っているが確認したことはない」と回答。その中で実際に確認した方の割合は14.6%であった。
 年代別では80代が88.9%と最も高く、次いで70代が71.4%であった。それぞれ、実際に確認された方の割合は80代が22.2%、70代が19.0%であった。
 男女別では男性が58.6%、女性が46.3%であった。それぞれ、実際に確認された方は、男性が17.8%、女性が11.7%であった。

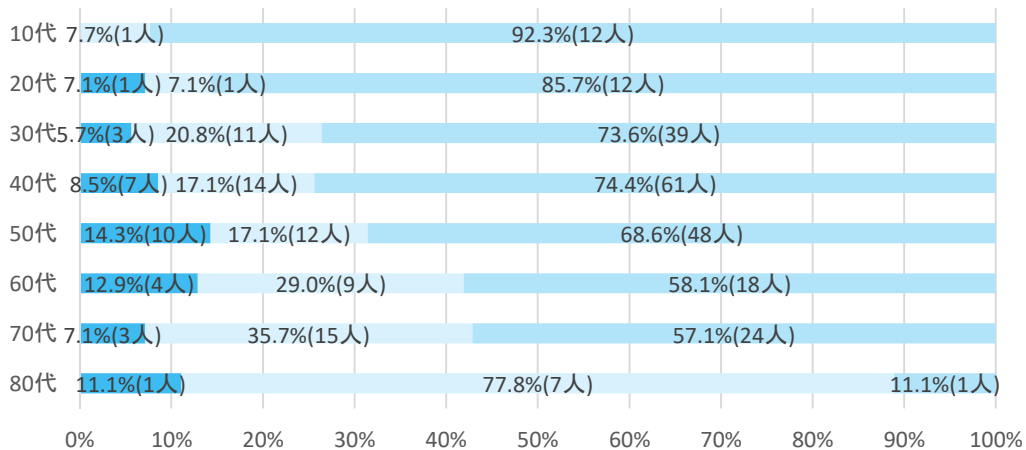
問 11 今回の改訂に伴い、洪水浸水想定区域のほかに、新たに「早期の立退き避難が必要な区域(※)」が設定されたことをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：314人）

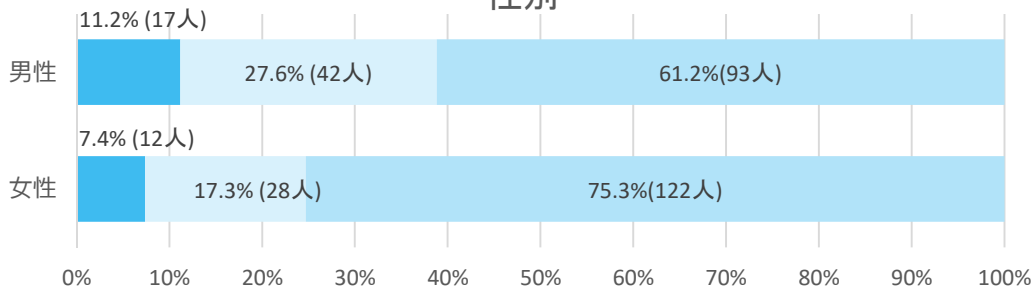
（※）早期の立退き避難が必要な区域とは、浸水深が3m以上かつ氾濫流や河岸浸食により家屋倒壊の恐れがある区域



■ 知っていて確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない
年代別



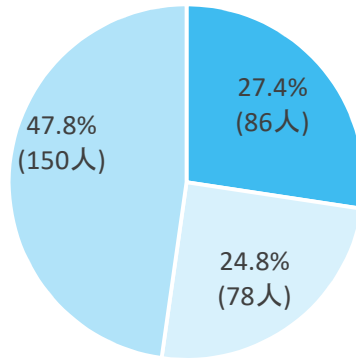
■ 知っていて確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない
性別



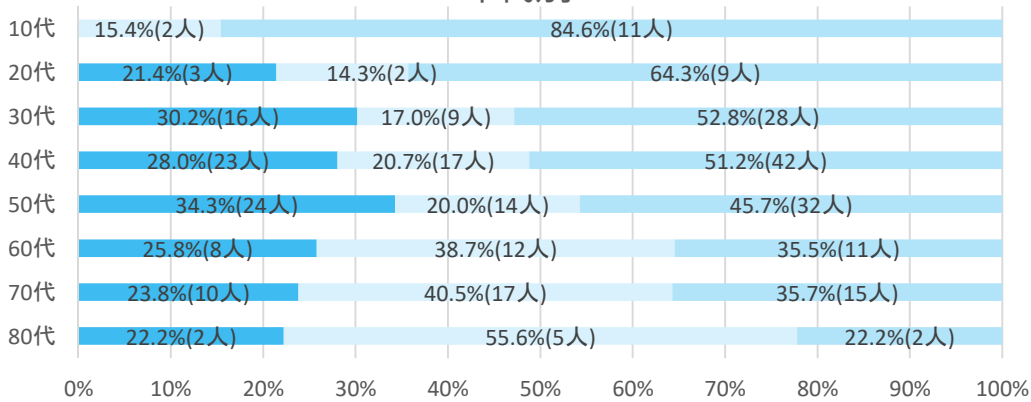
■ 知っていて確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない

全体の31.5%が「知っていて確認もした」もしくは「知っているが確認したことはない」と回答。その中で実際に確認した方の割合は9.2%であった。
 年代別では80代が88.9%と最も高かったが、その中で実際に確認された方は11.1%であった。
 男女別では男性が38.8%、女性が24.7%であった。その中で実際に確認された方は男性が11.2%、女性が7.4%であった。

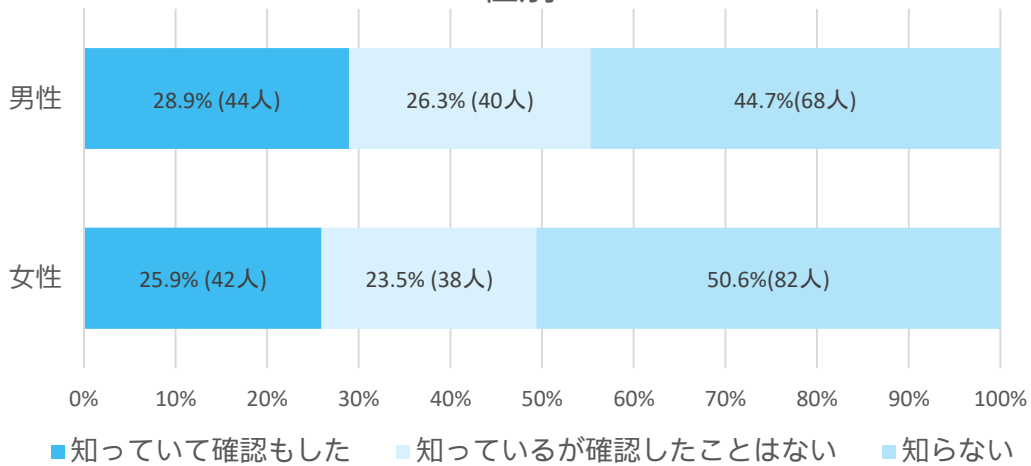
問12 今回の改訂に伴い、既往最大の浸水被害となった令和元年東日本台風（台風19号）による浸水実績が表示されていることをご存知ですか？（1つ選択）（回答者：314人）



■ 知っていて確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない
年代別



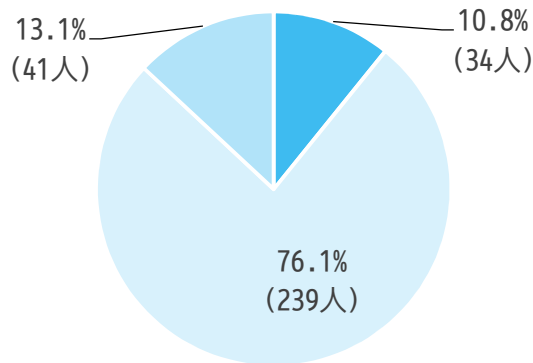
■ 知っていて確認もした ■ 知っているが確認したことはない ■ 知らない
性別



全体の52.2%が「知っていて確認もした」もしくは「知っているが確認したことはない」と回答。
 年代別では80代が77.8%と最も高く、次いで70代が64.3%であった。その中で、確認された方は80代が22.2%、70代が23.8%であった。
 男女別では男性が55.2%、女性が49.4%であった。その中で、確認された方は男性が28.9%、女性が25.9%であった。

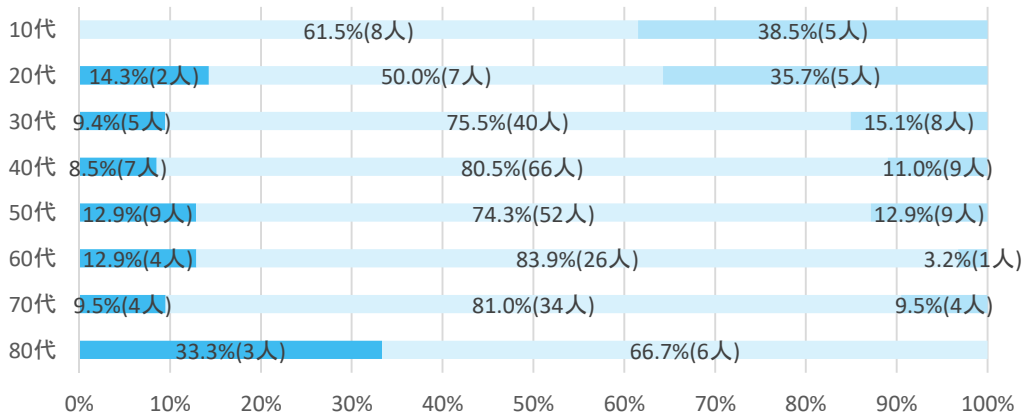
問 13 洪水ハザードマップ等により自宅や学校・職場周辺の水害リスクについて理解している
 と思いますか？（1つ選択）

（回答者：314人）



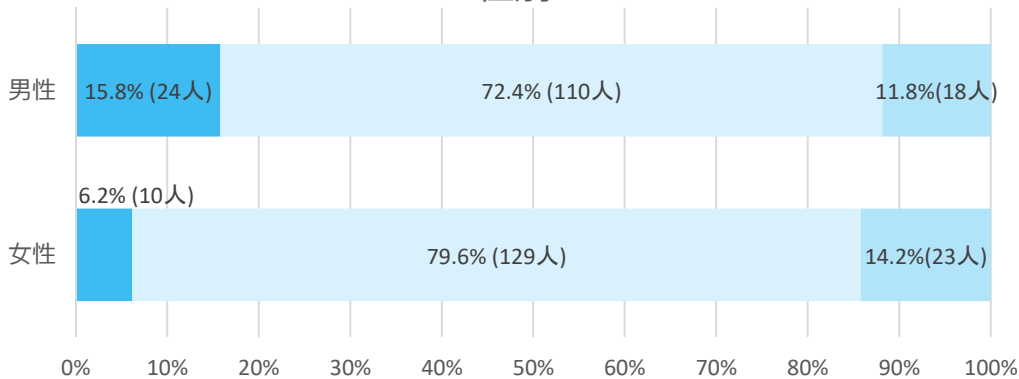
■十分に理解している ■ある程度理解している ■全く知らない

年代別



■十分に理解している ■ある程度理解している ■全く知らない

性別



■十分に理解している ■ある程度理解している ■全く知らない

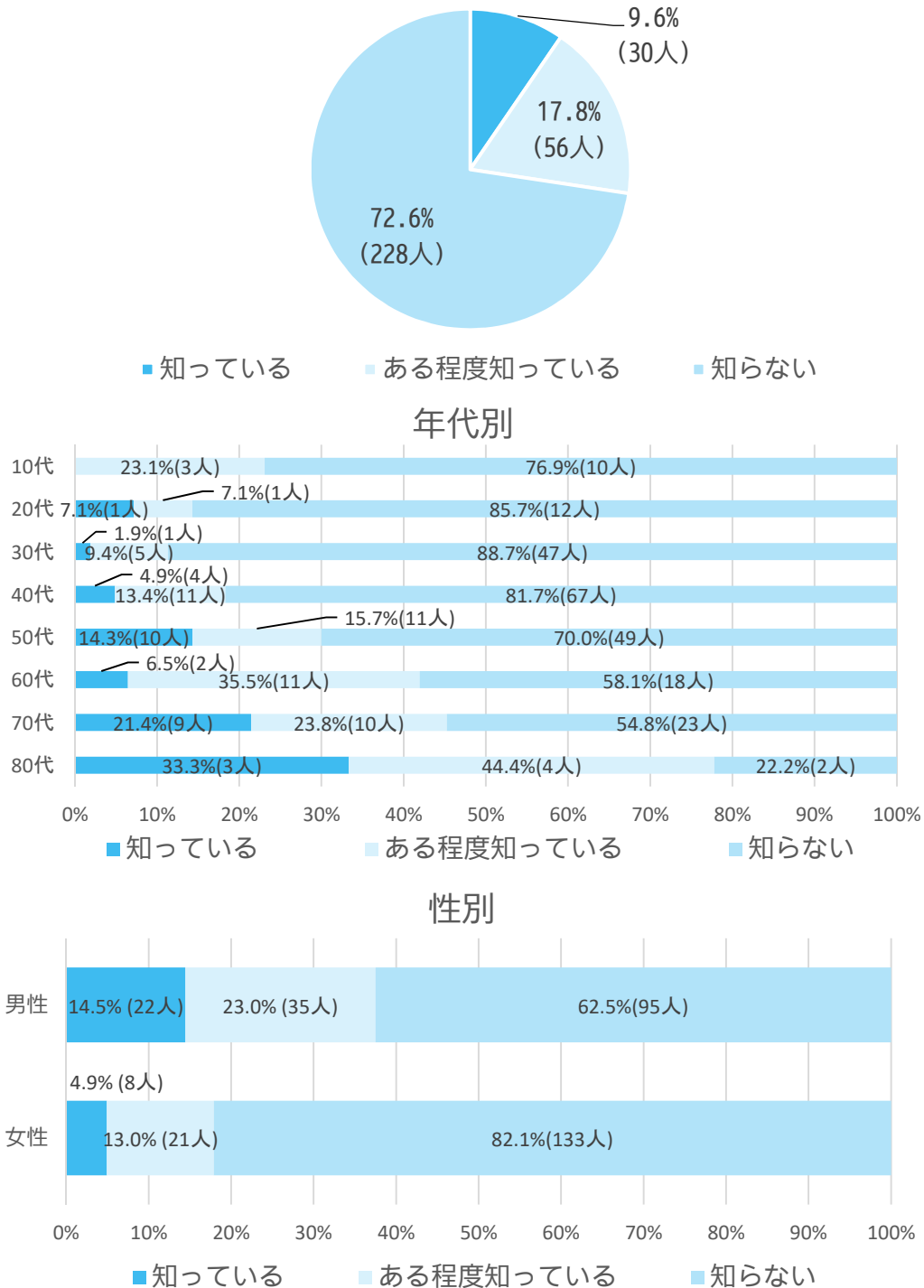
全体の86.9%が「十分に理解している」もしくは「ある程度理解している」と回答。
 年代別では80代が100.0%と最も高く、次いで60代が96.8%であった。
 男女別においても、男性が88.2%、女性が85.8%であり高い値を示した。

第3章 避難等について

問 14 今回の改訂に伴い「日本大学工学部・70号館」及び「帝京安積高校・アリーナ」が
 垂直避難（※）に特化した避難場所として、新たに追加されたことをご存知ですか？
 （1つ選択）

（回答者：314人）

（※）垂直避難とは、自宅やビルなどの建物の上層階に避難すること

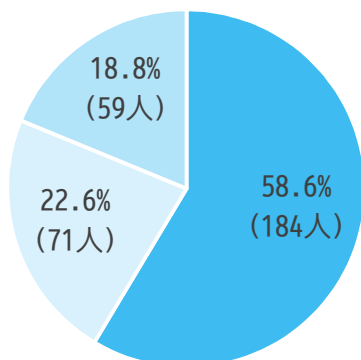


全体の27.4%が「知っている」もしくは「ある程度知っている」と回答。
 年代別では80代が77.7%と最も高く、20代が14.2%と最も低かった。
 男女別では、男性が37.5%、女性は17.9%であった。

問 15 あなたは、「車中避難(※)」という言葉をご存知ですか？ (1つ選択)

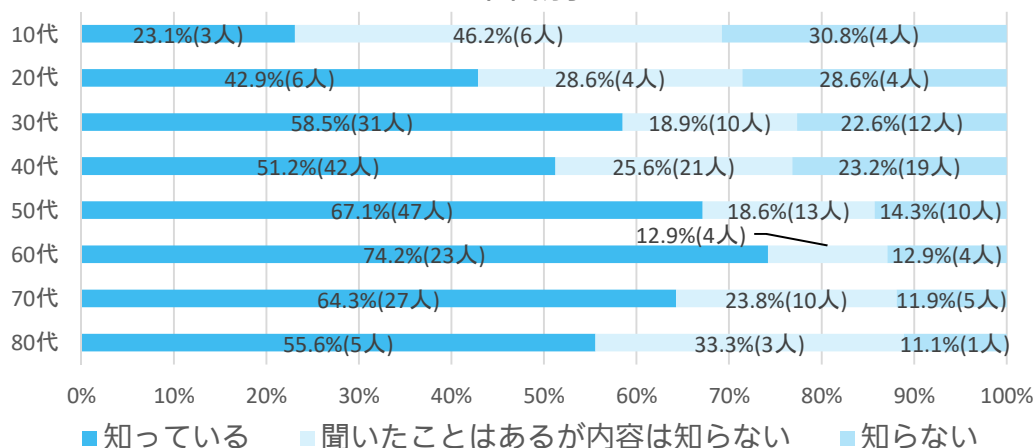
(回答者：314人)

(※) 車中避難とは避難所の3密を防ぐための分散避難の一つ



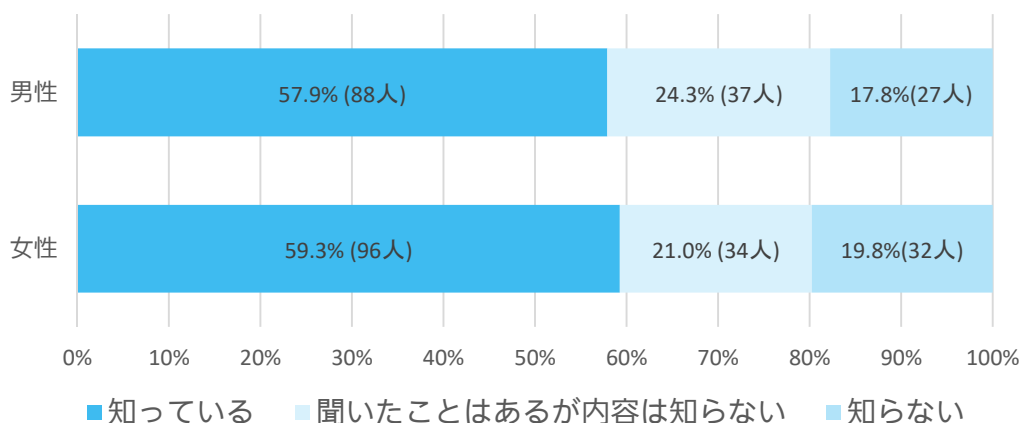
■ 知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 知らない

性別



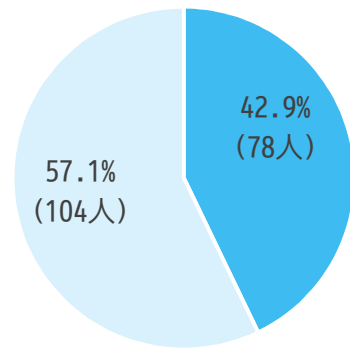
■ 知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 知らない

全体の58.6%が「知っている」と回答。
 年代別では、30代から80代が5割を超えており、その中でも60代が74.2%と最も高かった。
 男女別では男性が57.9%、女性が59.3%と回答。

問 16 問15で「知っている」を選択した方にお伺いします。郡山市では車中避難を行うために、公共施設や公園、民間等の駐車場を駐車場所として指定していることをご存知ですか？（1つ選択）

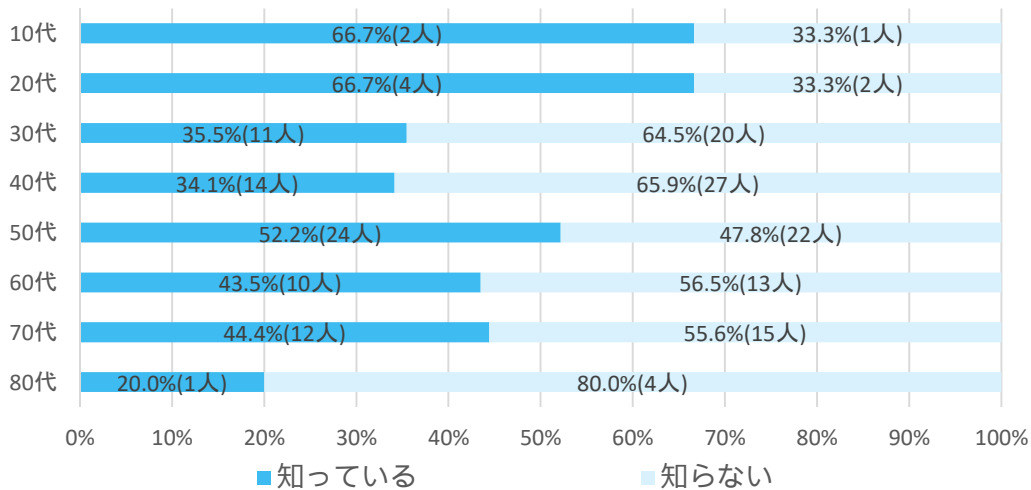
（回答者：184人）

※2人無回答



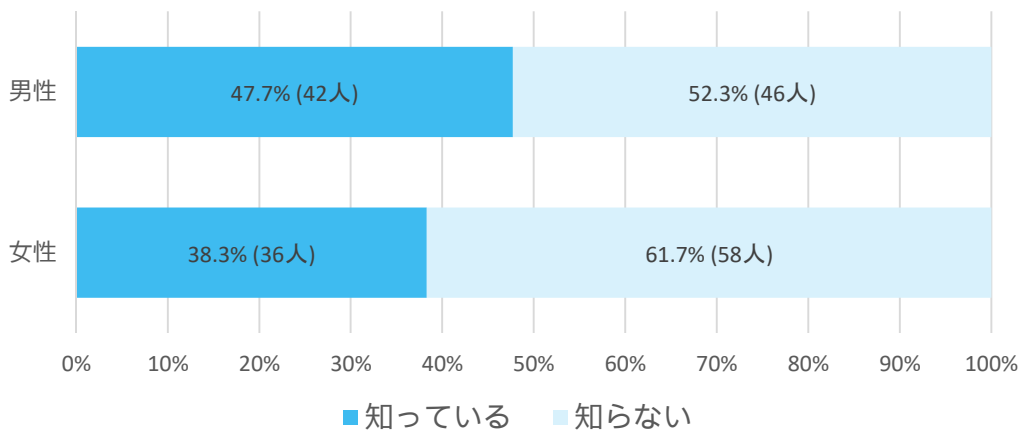
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



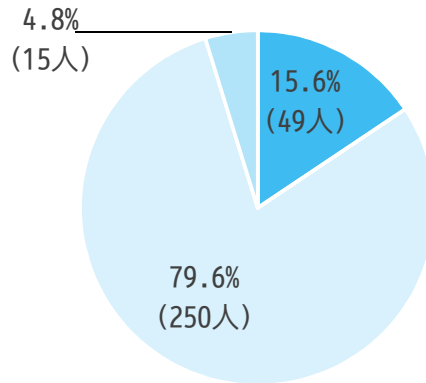
■ 知っている □ 知らない

全体の42.9%が「知っている」と回答。
 また、男女別では男性が47.7%、女性が38.3%と回答。女性よりも男性の方が認知度が高い結果となった。

第4章 その他

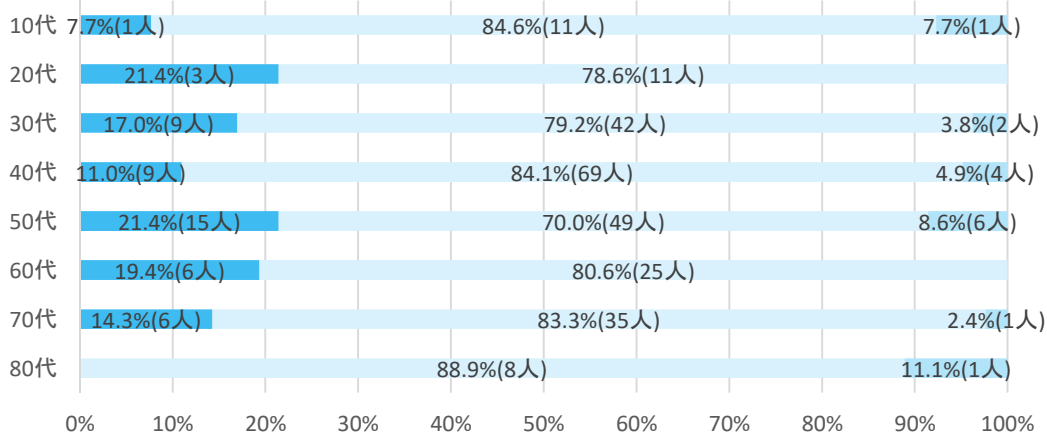
問 17 今回のアンケートを機に洪水ハザードマップを活用しようと思いますか？
(1つ選択)

(回答者：314人)



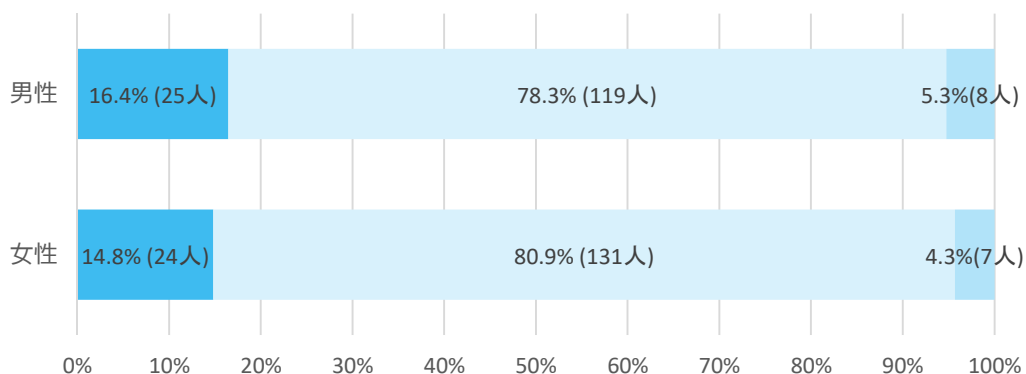
■ 既に活用している ■ 活用を考えている ■ 活用を考えていない

年代別



■ 既に活用している ■ 活用を考えている ■ 活用を考えていない

性別

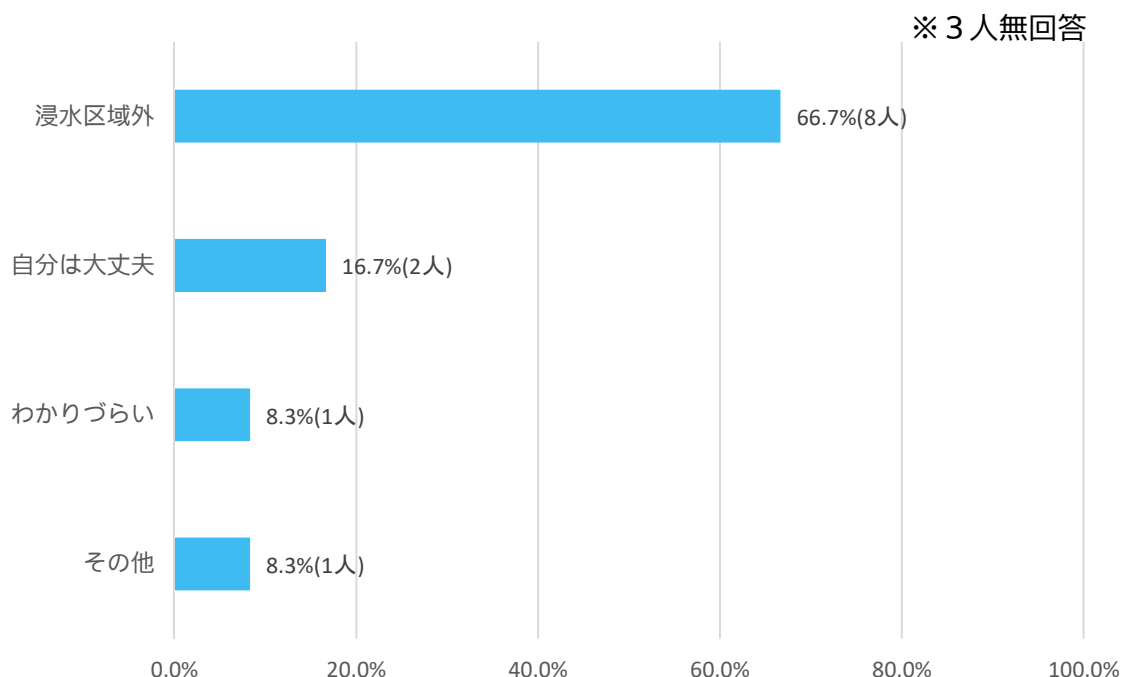


■ 既に活用している ■ 活用を考えている ■ 活用を考えていない

全体の95.2%は「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答。
年代別では、どの年代においても9割近くが「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答。
男女別においても、男性が94.7%、女性が95.7%と高い値を示した。

問18 問17で「活用を考えていない」を選択した方にお伺いします。それはなぜですか？
(自由記述)

(回答者：15人)



■「活用を考えていない」を選択した方の主な意見

- ・自宅が高台のため深刻さがない
- ・浸水想定区域に住んでいない
- ・自宅は浸水被害の危険はない
- ・自分は被害にあわないと思う
- ・ハザードマップがわかりづらい

「活用を考えていない」を選択した方のほとんどが、「浸水区域外」に住んでいることを理由として挙げており、66.7%であった。次いで「自分は大丈夫」とした方が、16.7%、「わかりづらい」が8.3%であった。

自宅が浸水区域外だと、水害への防災意識が薄い傾向にあると思われる。自宅以外でも被災する恐れがあることから、引続きハザードマップの周知徹底を図っていく必要がある。

問19 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください（自由記述）

（回答者：83人）

掲載方法・内容について

- ・防災情報が豊富なことに感心した。（70代 男性）
- ・今回の洪水ハザードマップはできがよいと思う。（80代 男性）
- ・今回の洪水ハザードマップの改訂で、ハザードマップの精度が上がったと思う。（40代 男性）
- ・洪水ハザードマップの改訂内容は分かりやすかったが、大きすぎて見づらいつと感じた。（40代 女性）
- ・配布されたハザードマップはサイズが大きく壁に貼るスペースがない。サイズについては再考をお願いしたい。（60代 男性）

周知・広報について

- ・自然災害も多く他人事には思えなくなっている。自治体の役割も大きく、周知させるのは大変なことと思いますがお願いします。（50代 女性）
- ・毎年各地で自然災害が多発しているので、いざというときに、どこが危ないのか知っていることは重要だと思う。市内でも電光掲示板などで知らせる手段があればいいと思う。（50代 女性）
- ・配布されたハザードマップは家族と確認したが、ウェブサイトにもいろいろ示されていることは知らなかった。知らない人は多いと思う。（50代 女性）
- ・アンケートを機に、もっと洪水ハザードマップを活用したいと感じた。市民の大部分は私と同じくらいの意識だと思うので、市の広報が必要だと思う。（60代 男性）

【市ウェブサイト】郡山洪水ハザードマップについて

- ・令和元年東日本台風（台風19号）の時はなかなかアクセスができなかった。サーバーの強化をお願いしたい。（30代 男性）
- ・昨年の水害の時には市ウェブサイトのハザードマップに全然繋がらなく非常に困った。（70代 男性）

その他意見

- ・「郡山市地理情報システム」があることをこのアンケートで知った。是非見てみたい。（40代 女性）
- ・いつ洪水被害が出るか分からないので、きちんとハザードマップを確認しておこうと思う。（40代 女性）
- ・過去は大丈夫だったから…という安易な考えは捨てるのが大事だと思う。（60代 女性）
- ・パソコンを持っていてニュースや情報を見るが、市のウェブサイトを見る習慣がなく、大切な情報があること、更新されていることなどを知らなかった。定期的に見る習慣をつけたい。（60代 男性）
- ・災害に対して比較的 safety 地帯（に住んでいる）との認識で、特に洪水はないものと思っていたが、無関心になっていることに反省している。（70代 男性）